基礎自治体における母子保健事業の父親支援好事例集

研究概要	
研究区分	厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（健やか次世代育成総合研究事業）課題番号20DA1002
研究課題	わが国における父親の子育て支援を推進するための科学的根拠の提示と支援プログラムの提案に関する研究
研究代表者	竹原　健二 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 研究所 政策科学研究部

2023年3月

目次

1. はじめに …… 3
2. 本書の構成 …… 4
3. 父親支援の既存制度の把握自治体好事例調査報告 …… 6
   3-1. 北海道江別市 …… 7
   3-2. 北海道函館市 …… 8
   3-3. 北海道苫小牧市 …… 9
   3-4. 青森県平川市 …… 10
   3-5. 群馬県富岡市 …… 11
   3-6. 千葉県印西市 …… 12
   3-7. 埼玉県毛呂山町 …… 13
   3-8. 新潟県新発田市 …… 14
   3-9. 長野県小諸市 …… 15
   3-10. 福井県坂井市 …… 16
   3-11. 山梨県市川三郷町 …… 17
   3-12. 山梨県上野原市 …… 18
   3-13. 神奈川県大和市 …… 19
   3-14. 愛知県北名古屋市 …… 20
   3-15. 愛知県名古屋市 …… 21
   3-16. 愛知県高浜市 …… 22
   3-17. 岐阜県恵那市 …… 23
   3-18. 三重県名張市 …… 24
   3-19. 兵庫県西脇市 …… 25
   3-20. 福岡県福岡市城南区 …… 26
4. 父親支援の試行的プログラムの取り組み調査報告 …… 27
   4-1. 東京都世田谷区 …… 28
   4-2. 東京都武蔵野市 …… 32
   4-3. 神奈川県横浜市 …… 36
   4-4. 京都府京都市南区 …… 40
   4-5. 京都府京都市西京区 …… 42
   4-6. 京都府向日市 …… 45
   4-7. 三重県四日市市 …… 48
   4-8. 兵庫県芦屋市 …… 51
   4-9. 大分県 …… 53
5. まとめ …… 56

1.はじめに

【はじめに】

本事例集は「厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（健やか次世代育成総合研究事業）課題番号20DA1002」による「わが国における父親の子育て支援を推進するための科学的根拠の提示と支援プログラムの提案に関する研究」の一環として行われた調査・研究の成果物の一つです。

近年の子育てを取り巻く環境は大きく変化し、従来の母親を中心とした子育てのあり方も家族や地域社会をその対象とした、多様な子育て環境が意識されるようになりました。その代表的な支援の対象として、近年「父親」が大きくクローズアップされてきています。

これまで母親を中心としてその事業がなされていた、自治体や母子保健領域においても、父親をその対象とした取り組みが見られるようになってきました。社会全体の男女共同参画社会実現への取り組みや、児童虐待の増加と母親の育児負担の軽減対策、また父親自身の育児への参画を望む姿など、社会全体の様々な事象がここにきて変化の兆しとして見られています。

本書はそのような父親を取り巻く環境への対応として、自治体における父親を対象とした取り組みの好事例を収集し報告するものです。この事例は、2020年度に実施した「全国基礎自治体の母子保健担当者への父親支援に関する調査」において、全国の自治体から寄せられたものをベースにし作成したものです。全国の自治体において、様々な父親に関わる取り組みやプログラムが見られます。また同時に父親への事業の工夫や課題など、それぞれの自治体の規模や状況、取り組みの方向性や意識などにおいても、多様でそして有益な取り組みが報告されています。

これらの好事例集が、これから父親に対する支援や取り組みを始めようとされる自治体の皆様にとって有益なものとなるよう、そしてその取り組みが我が国の父親やそれにつながる、母親や子どもや家族のより良い幸福や健康につながること期待しております。

2.本書の構成

【事例集の構成と見方】

各自治体の事例に関しては、大きく4枚のシートから構成されています。

1. 父親事業の具体的な取り組みとその内容

具体的な父親事業の取り組みの「事業スローガン」「事業名」「実施時期」「実施場所」など、事業自体の概要や枠組みを確認しています。

2. 各自治体のプロフィール

各自治体の基本情報です。「面積」「地勢」「地域の概要」「概況」を確認しています。

3. 「取り組みの経過」「2019年度 取り組み内容（実施状況）」

・具体的にどのような経過やプロセスを経て、その事業の実施がなされたのかを回答いただいています。

・具体的な事業の参加者やその取り組み内容などについて回答いただいています。

4. 「工夫点」「課題」「取り組みの評価」

・事業の実施にあたっての工夫点や取り組みの方法やアイディアなど回答いただいています。

・事業を実施するにあたって苦労した点や改善点、また行政として取り組む困難さなど、取り組みを行う上での課題について回答いただいています。

2.本書の構成

【父親支援の試行的プログラムの構成と見方】

自治体における父親支援プログラムをより詳細に記載しました。全国の自治体で先駆的、特徴的な父親支援プログラムについて、それぞれの自治体のヒアリングや実際の取り組み状況も併せて報告しています。

これらは今後様々な自治体で父親支援に取り組む場合の、大きな示唆となるものであると考えます。それぞれの自治体の父親支援の取り組みも、全てがスムーズなスタートができたわけでもなく、また取り組みの手応えを感じている一方で様々な課題も見受けられます。行政の行う政策や取り組みは、明確な目的の設定に基づく適切な実施、そして効果測定のもとにおいてその活動の成果が問われます。これらの取り組みを各自治体が積み重ね、そしてこのように多くの方に発信し議論を重ねることで、より良い形やアイディアが蓄積されることにつながると思います。

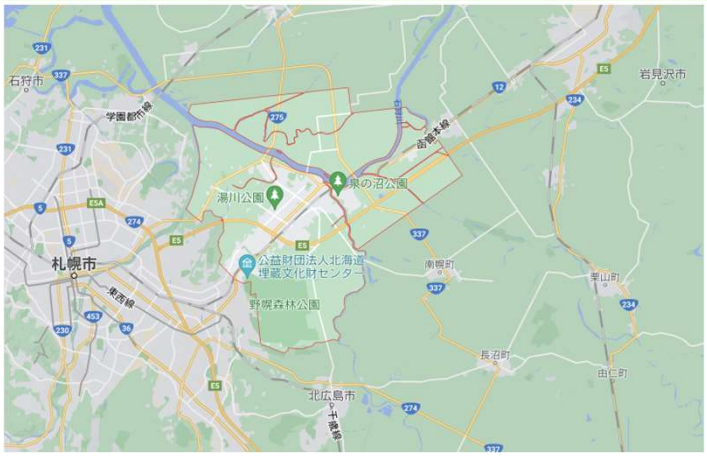
ぜひ、これらの取り組みを参考として、全国の多くの自治体において父親支援が取り組まれることを切に願います。

父親支援の既存制度の把握
自治体好事例調査報告

調査自治体一覧

No.	自治体名	事業名	担当部署
1	北海道江別市	日曜ひろば	子育て支援センターすくすく
2	北海道函館市	プレママ・プレパパ教室（両親学級）	子ども未来部母子保健課
3	北海道苫小牧市	おとうさんといっしょ！！	健康こども部健康支援課
4	青森県平川市	パパママ教室	子育て健康課 子育て世代包括支援係
5	群馬県富岡市	はじめてのパパ教室（両親学級）	健康推進課
6	千葉県印西市	パパのための運動応援講座＆ 子ども簡単おやつクッキング	健康子ども部健康増進課健康支援係
7	埼玉県毛呂山町	パパと遊ぼう！	子ども課
8	新潟県新発田市	父子手帳発行	健康推進課健やか育児支援係
9	長野県小諸市	プレパパスクール（両親学級）	健康づくり課 保健予防係
10	福井県坂井市	パパママレッスン	健康福祉部 健康増進
11	山梨県市川三郷町	パパママ学級	いきいき健康課
12	山梨県上野原市	ママパパ教室	福祉保健部子育て保健課
13	神奈川県大和市	やまとイクメン講座	こども部すくすく子育て課母子保健係
14	愛知県北名古屋市	パパママ教室（妊娠編）（育児編）	妊娠編→健康課、育児編→健康課、児童課
15	愛知県名古屋市	共働きカップルのためのパパママ教室	子ども青少年局子育て支援部子育て支援課
16	愛知県高浜市	パパさろん	高浜市福祉部健康推進グループ
17	岐阜県恵那市	もうすぐパパママ学級	子育て支援課
18	三重県名張市	サタパパ広場	こども支援センターかがやき
19	兵庫県西脇市	３世代パパ・ママ育て事業	都市経営部茜が丘複合施設
20	福岡県福岡市城南区	パパスクール城南	保健福祉センター地域保健福祉課

3-1.自治体好事例調査報告　北海道江別市



【面積】187.6 km²

【地域の概要】

総人口世帯数：119,667人

58,960世帯（令和3年8月1日）

高齢化率：65歳以上31.3%（令和3年8月1日）

事業のスローガン：「父親の育児参加の支援」

核家族化や母親の社会進出により、母親の育児負担感が増加している中、父親が積極的に子育てに参加できるよう支援する。

事業名　：１、「日曜ひろば」
２、「お父さんと子どものための日曜ひろば」
３、「父親支援講習会」

実施時期：１、2019年4月・5月・10月・12月・2020年1月
２、2019年9月・2020年2月
３、2019年11月

実施場所：子育て支援センターすくすく

【概況】

〇事業開始：「日曜ひろば」2009年より
「お父さんと子どものための日曜ひろば」2019年度より

〇対　　象：就学前の子どもを持つ父親

〇実施頻度：「日曜ひろば」年5回
「お父さんと子どものための日曜ひろば」年2回
「父親支援講習会」年1回

〇募集人数：（特に制限はなし）

〇担当部署：子育て支援センターすくすく

〇担当者 職種 人数：子育て支援センター職員(保育士)　3名

取り組みの経過

平日は仕事等で参加しづらい父親の利用促進のため、2009年より「日曜ひろば」（日曜日のひろば開放）を開催。現在年5～6回開催している。「日曜ひろば」では子どもと母親と共に来館する父親が多く、母親のリフレッシュのために父親一人で子どもを連れてくる姿も見られた。更に父親が参加しやすいよう2019年度より、父親と子どもに限定したひろばの開放「お父さんと子どものための日曜ひろば」を定期的（年２回）に開催するようになった。

また、父親の子育て知識啓発を目的として、年1回講習会等をおこなっている。

2019年度　取り組み内容（実施状況）

・「日曜ひろば」　利用者合計：72組176人中、父親40人参加。（年5回開催）

・「お父さんと子どものための日曜ひろば」　利用者合計：30組65名（年2回開催）

・「父親支援講習会　お父さんといっしょにスポーツしよう」対象は父親と子ども。講師を招いて開催　利用者合計：14組28名

工夫点

・父親が参加しやすい曜日の設定

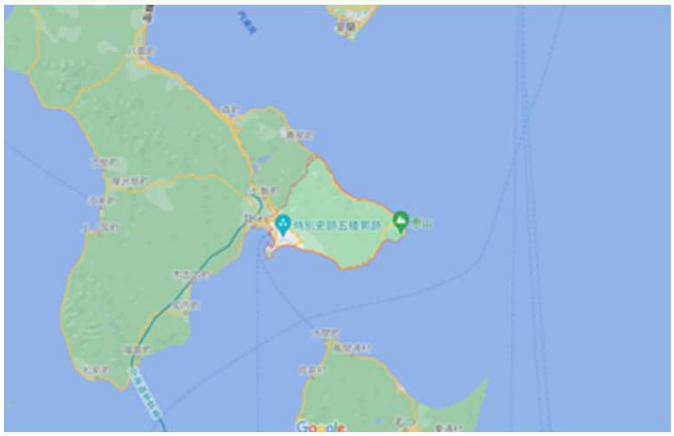
課　題

・子どもと共に自由に参加できる（遊べる）場を設定することで、父親の参加意識は上がっているが、父親向けの講習会など、学びの場になると参加率は低くなる。
・共に遊ぶ場の設定だけでなく、父親の学びの場になる機会をどのように作っていくのがよいかが課題

取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

・日曜日のひろば開放で、普段子育て支援センターに来れない父親が子どもと過ごすきっかけになっている。
対象を父親に限定したことで父親と子どもが気軽に遊びに来れる場になっていた。
父と子が遊ぶだけではなく父同士が会話する姿が見られるようになるなど、父親の意識の変化も感じられる。
・「お父さんと子どものための日曜ひろば」アンケートより
【感想】「とても楽しかった」「また参加したい」が多数
【参加の動機】「妻から勧められた」が多数。他「妻に時間を作ってあげたかった」「父親だけなら過ごしやすいと思った」など
・「お父さんといっしょにスポーツをしよう」アンケートより
【感想】「子どもが楽しそうに参加しているのを見て、自分も楽しめた」「日曜日で参加しやすかった」
「いろいろな遊びを体験でき良かった」など

3-2.自治体好事例調査報告　北海道函館市



【面積】677.87㎢(令和3年4月1日現在)

【地勢】渡島半島の南東部に位置し、東・南・北の三方を太平洋・津軽海峡に囲まれ、西は北斗市・七飯町・鹿部町と接している。

【地域の概要】

総人口世帯数：140,972世帯（令和3年3月末）

高齢化率：36.0%（令和3年3月末）

出生数：1,305名（令和元年）

合計特殊出生率：1.18（令和元年）

【概況】

〇事業開始：平成15年

〇対　象：市内在住の妊娠12週から35週までの初妊婦とその夫・家族

〇実施頻度：年6回

〇募集人数（1回あたり）：15組
（感染対策上、通常30組を縮小）

〇担当部署：子ども未来部母子保健課

〇担当者：保健師4名、看護師2名、管理栄養士1名、心理士1名 (令和3年度)

事業のスローガン：

新しい家族を迎えるために、ぜひご参加ください

事業名　：プレママ・プレパパ教室（両親学級）

実施時期：隔月（奇数月）に開催

実施場所：函館市総合保健センター

取り組みの経過

核家族化や地域連帯意識の希薄化など、妊婦を取り巻く環境が変化している現状のなかで、妊婦を理解し支えるために、夫やその他の家族を対象として、適切な情報の提供、父親の育児参加の啓発が必要と考え事業を開始した。

2019年度　取り組み内容（実施状況）

1、妊婦シミュレーター体験（夫）

2、講義「家族みんなで取り組むお口の健康」

3、講義「健やかな赤ちゃんを産むための食事」

4、「赤ちゃんのおふろの入れ方」

工夫点

・民間の医療機関においても母親学級を実施していることから、定期的に医療機関に対して実施内容を照会するアンケート調査を実施し、行政サービスとしての対象者や内容を検討している。

・感染対策上、事業の中止や縮小せざるを得ない状況が続く中で、適切に情報発信を継続するために、2020年度末から、両親学級の動画配信を開始した。

課　題

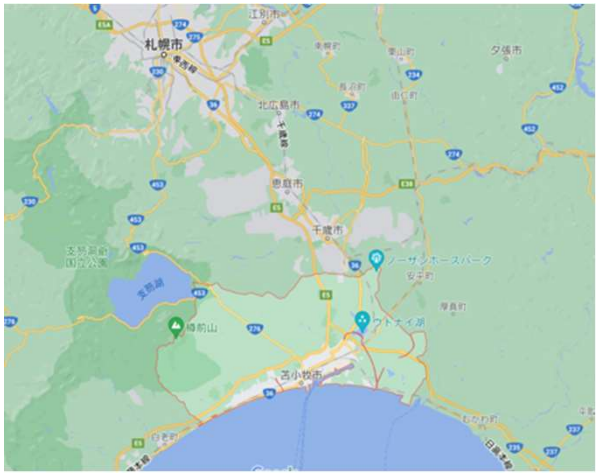
・核家族化の進行とともに、「産後うつの増加」、「ワンオペ育児」、「産後クライシス」等、子育てをめぐる厳しい環境が問題視され、父母のメンタルヘルスが重要となっている。
　→2021年度から心理士によるメンタルヘルスの講話を開始「ママ、パパになるプロセスにおけるメンタルヘルス」

取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

・受講者へのアンケート調査から、教室への参加理由として、「沐浴実習に興味がある」との返答が8割を超えており、「産後の生活をイメージしたい」、「妊婦シミュレーターに興味がある」との返答も4割程度あったことから、母体への理解や配慮、夫とその他の家族が沐浴等の手技を獲得し、育児に参加することを期待していることが伺えた。

・参加者全員から、「参加して良かった」との声が聞かれており、「夫婦で参加したことで、互いに理解できて良かった」、「赤ちゃんが生まれてからの生活をイメージすることができた」等、夫婦で育児を具体的にイメージし、自信をつける機会になっていると考える。

3-3.自治体好事例調査報告　　北海道苫小牧市



【面積】561.58 ㎢

【地勢】苫小牧市は道央地区の南部に位置し、北西側の樽前山を背に台地・丘陵・沖積低地からなる地形で太平洋に面しており、全般に温暖で、冬期の降雪も少なく、しのぎやすい気候となっています。
本市の自然は、樽前山麓の広大な森林をはじめ、湖沼群や湿原、自然緑地などが広く分布しています。なかでもウトナイ湖は、全国屈指の渡り鳥の中継地として知られており、国際的にも重要な湿地として1991年12月にラムサール条約に登録されました。

【地域の概要】
総人口世帯数：169,800人（令和3年6月末）
高齢化率：29.6%（令和3年6月末）
出生数： 1,152人（令和2年）※年次
合計特殊出生率：1.51 （平成20～平成24年度）
※苫小牧市人口ビジョン及び総合戦略（令和2.3）より

事業のスローガン：子育て応援教室

事業名　：おとうさんといっしょ！！

実施時期：令和元年度

実施場所：北海道苫小牧市教育・福祉センター
（苫小牧市幸町1丁目2番21号）

【概況】

〇事業開始：令和元年度

〇対　　象：生後4か月から1歳6か月以下の児とその父親

〇実施頻度：年2回（7月、1月）

〇募集人数（1回あたり）： 24組

〇担当部署：健康こども部健康支援課

〇担当者　職種：保健師人数3～4名（実施当日）

取り組みの経過

・平成28年度より、父親参加型事業として『パパカフェ』を委託事業として実施。
（年3回、保育士による父子での親子遊び、先輩パパの小話、パパ同士の交流）

・参加人数が少ないため、令和元年度より、直営で『おとうさんといっしょ！！』を実施。
（年2回、保健師の講話、保育士による親子遊びの紹介・手形アート作り）

2019年度　取り組み内容（実施状況）

・「おとうさんといっしょ！！」　利用者合計：41組（年2回開催）（参加者の内訳：0歳児28名、1歳児13名）
（出生順位：第1子39名、第2子2名）（父の年代：20代15名、30代23名、40台3名）

工夫点

・参加者を2グループ（乳児・幼児）に分け、それぞれの月齢に応じた講話・遊びを行っている。

・形に残るものとして、父と子の手形アートを作成している。

課　題

・コロナ禍のため、参加人数を制限している（母親の参加をお断りしている）

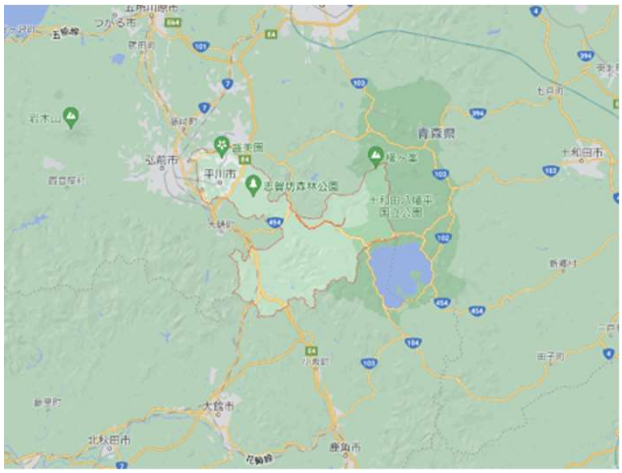
・父親へのピアサポート支援事業としての事業には該当しないため、今後、出産や子育てに悩む父親に対する支援を更に充実していく必要があると考える。

取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

・アンケート内容（配布数41　回収数31　回収率75%）　総合満足度（満足：96.8%、未記入：3.2%）

・アンケート内容からも参加者の満足度は高く、育児への関心や接し方の自信も参加前後でプラスに変化しており、参加者の目的・事業目的ともに達成できたのではないかと考える。今後も、参加者のニーズや理解・満足度を把握するため、アンケートを継続し、アンケートの内容を見ながら、内容の充実を検討する。

3-4.自治体好事例調査報告　　青森県平川市



【面積】346.01 ㎢
【地勢】津軽平野の一部で農業に適した肥沃な土壌の地質を持ち、水田地帯として利用される平坦地と、標高20～300メートルの丘陵地で水稲とりんごの複合経営地帯として活用されている台地、八甲田・十和田火山群の一部に属した山間地で、ほとんどが国有林となっています。
平川市の気候は日本海型気候に属していますが、東に八甲田山、西に岩木山があり四方山々に囲まれていることから1年を通じ安定した温暖な気候で、しかも温暖差が少なく県内ではもっとも恵まれている地域となっています。
緑が多く、人々が快適な生活を送れる自然環境を保っており、四季の移り変わりが美しく、また、自然災害も比較的少ないところでもあります。

【地域の概要】
総人口世帯数：30,569人、
12,177世帯（令和3年7月31日）
高齢化率：31.41%（平成27年）
出生数： 166人（令和元年）
合計特殊出生率：資料なし

【概況】

〇事業開始：平成29年度

〇対　　象：市内に居住する妊婦及びその家族
（妊娠16週から36週頃まで）

〇実施頻度： 4か月に1回　※令和2年度は2回実施

〇募集人数（1回あたり）： 10組程度

〇担当部署：平川市子育て健康課　子育て世代包括支援係

〇担当者　職種　人数：●主担　保健師1名
●副担　助産師1名　専門員1名

事業のスローガン：
共働きの家庭が増える中、父親の積極的な子育て参加を啓蒙し、子育ての関わり方や育児基礎知識、
子育ての楽しさ、喜びを夫婦で分かち合う

事業名　：パパママ教室

実施時期： 6月、10月、2月
※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止により12月、2月の2回実施

実施場所：平川市健康センター
〒036-0104　青森県平川市柏木町藤山16-1

取り組みの経過

・令和元年度から事業開始前のアンケートを実施し、参加者の状況を把握してその内容を事業に反映する等の改善を行った一方、アンケート記載に時間を要するため、これを廃止して、妊婦体験や抱っこ体験を行う時間を増やすなど改善をしている（なお、現在は事前アンケートを実施している）。
・平成30年度までは1回あたり2人の助産師を講師としていたが、令和元年度より青森県助産師会に業務委託し、それまで以上に多くの助産師が本事業に関わり、専門的な助言や指導をより厚く受けることが可能な体制を整えている。
　当初、実際にお湯を張って沐浴体験を実施していたが、お湯を張らなくても模擬体験が容易であり、現在ではエアで実施している。

2019年度　取り組み内容（実施状況）

1、助産師の講話　お産・妊娠の経過、歯の手入れ、ホルモンの変動と産後うつ、夫のサポートの必要性、リラクゼーションストレッチ、栄養バランスについて、喫煙について、夫にできること　ほか
2、体験コーナー　人形を使った沐浴体験、育児体験、赤ちゃんの着替えやおむつ交換、妊婦体験　ほか
3、夫婦でミーティング

工夫点

参加者の年齢や初産婦、経産婦等の諸条件をスタッフで情報共有し、参加者の状況に応じた事業内容となるように柔軟に対応している。座席は週数が近い人同士を隣接させる等の配慮をしている。講話だけでなく、体験活動を多く取り入れるようにしている。講話に産後うつを取り入れることで夫に重要性を認知させる機会を設けている。産まれてからの家事分担・育児分担を産まれる前に話し合いができるようにしている。上の子が参加した場合には、上の子にも内容が理解しやすいように工夫して講話等している。広報や健康カレンダーなどへの掲載に加え、個別通知、中期以降のアセスメントの際に対象者に参加を呼び掛ける等、機会を見逃さずに対象者への周知に努めている。年3回いずれも夜間に実施することで夫婦・家族で参加しやすい状況を作っている。

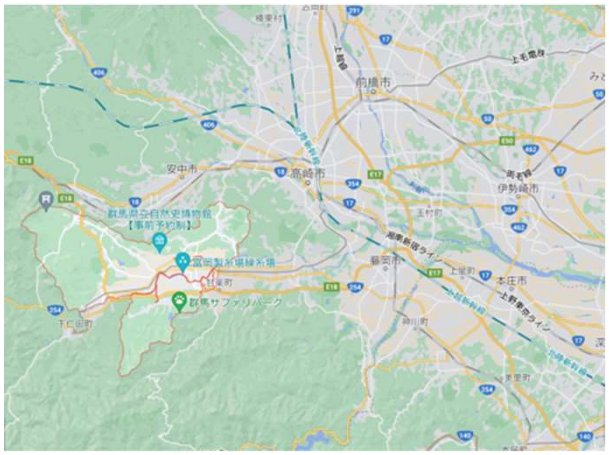
課　題

医療機関で実施していた母親教室が新型コロナウイルスの影響で未実施となるなどし、参加者が増大した。これにより参加上限を超え、参加希望者すべてを参加させることができなかった（なお、参加できなかった者に対して個別に対応する体制をとっている）。内容を充実させている反面、参加者個別に対応する時間や意見交換の時間を十分に設けることができていない。

取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

夫を含む全参加者の評価は良好。
特に夫から家事育児分担の必要性を感じた等の意見が聞かれたことは評価できるものと感じられる。
事業のスローガンに資する内容で実施されているものと感じられる。

3-5.自治体好事例調査報告　　群馬県富岡市



【面積】122.85 ㎢

【地勢】本市は、群馬県の南西部に位置し、安中市、下仁田町、甘楽町と接しています。東京から約100kmの距離にあり、上信越自動車道及び関越自動車道によって東京と約1時間で結ばれ、高崎市及び前橋市からは、20～30kmの距離にあります。

東は関東平野に続く平坦地で、西には上毛三山の一つである標高1、104mの妙義山、南には標高1、370mの稲含山、北は小高い丘陵地帯であり、中央部を鏑川とその支流である高田川が流れ、その流域に平地が開け、市街地・集落地を形成している四季の変化に富んだ自然が豊かで、風光明媚な地域です。

【地域の概要】
総人口世帯数： 47,220人・20,361世帯(令和3年8月1日)
高齢化率： 36.6%（令和3年8月1日)
出生数　： 218人（令和1年10月1日）
合計特殊出生率：1.14（令和1年10月1日）

【概況】
〇事業開始：2000年
〇対　　象：初妊婦とその夫（パートナー）
〇実施頻度：年3回
〇募集人数（1回あたり）：原則制限なし
〇担当部署：健康推進課
〇担当者　職種　：助産師　人数　1人（主担当）

事業のスローガン：
妊娠・出産・育児を安心して行えるように、
正しい知識を啓発し、妊娠期からの交流を目的とする。

事業名　：はじめてのパパ教室（両親学級）

実施時期：年3回

実施場所：保健センター

取り組みの経過

・母親学級を開催している中で、沐浴実習時には夫婦での参加を促していたが、母親学級は、平日に実施していたため、「参加したいが夫は仕事が休めない」などの声があった。そのため、開催日を土曜日にし、また、父親として妊娠・出産・育児をイメージしやすいよう内容を工夫し実施することとした。

2019年度　取り組み内容（実施状況）

対象者　　：初妊婦とその夫（パートナー）など
実施回数等：年3回実施（申込制）・土曜の午前中（6/22・11/30・2/22）
実施会場　：保健センター
実施内容　：先輩パパの体験談・ＤＶＤ「お父さんへ」・沐浴実習・妊娠シミュレーター（模擬）体験・交流会
スタッフ　　：先輩パパ・助産師・保健師・看護師など
周知方法　：母子健康手帳交付時に案内配付・広報・ホームページなど
受講人数　：延29組（59人）

工夫点

・先輩パパから妊娠、出産、子育ての状況を話していただく機会を設けている。そのことによって、参加者は妊娠、出産、子育てをより身近に感じられるように取り組んでいる。
・産後鬱について、先輩パパに実体験を話してもらったり、資料にて周知を行っている。
・夫婦での参加を基本としており夫婦の絆づくり、また、他の夫婦との交流もあるため、他の家族との関係性を築くきっかけづくりにしている。

課　題

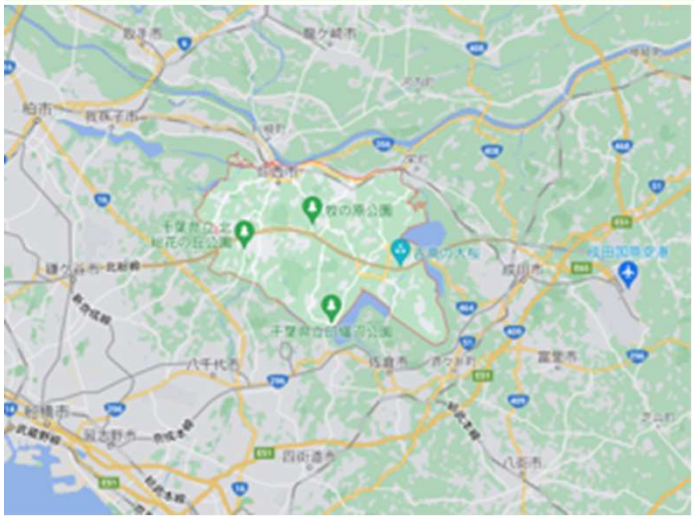
年々、核家族化が進み、夫婦での子育てが増加し、父親のサポートは重要になってきている。富岡市では、1回の教室に、父親としての意識、実践という内容になっている。1回の内容で、父親自身がサポートの重要性を感じ、積極的に行動してもらえるように促していくことが必要である。そのため、父親自身が理想の父親像を考え、どう取り組んでいくか、具体的に考えられるような事業内容にしていくことが課題と考える。

取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

＜参加者からの声＞
・妻に促されて参加したが、教室に参加したことで、妊娠、出産、子育てをもっとサポートしようという意識に変わった。
・妊娠中がこんなに大変だとは思わなかった。妻に何かを頼むのは大変と思った。
・妻の精神面の変化を知り、サポートをしようと思った。
・沐浴を実践したことで難しさを実感した。出産までに練習をしようと思った。
・赤ちゃん人形の重たさを実感した。
・出産前に勉強ができてよかった。

参加者の声から、先輩パパから具体的な内容を聞いたうえで、DVDにてイメージを具体化していくこと、赤ちゃん人形の抱っこや妊婦シミュレーターでの妊娠の擬似体験、沐浴の実習を行うことで、父親としての意識の変化に繋がっている。教室に参加したことで、父親像を考えるよい機会になり、これから夫婦で子育てを行っていくことを考えるきっかけづくりになっていると考える。

3-6.自治体好事例調査報告　　千葉県印西市



【面積】123.79 ㎢
【地勢】南東部を印旛沼、北西部を手賀沼、北部を利根川に囲まれ、標高20から30m程度の下総台地といわれる平坦な台地と、沼及び河川周辺の低地により構成されています。

市の大部分を占める台地は周囲の沼や川につながる谷津といわれる谷に切り込まれ、北総地域に特徴的な景観を形成しています。

地質は、台地に関しては上部に関東ローム層が厚く蓄積し、低地部は河川によって運び込まれた土砂が堆積する肥満沃な土地が広がっています。

【地域の概要】
総人口世帯数：43,045世帯（令和3年7月末時点）

高齢化率：22.4%（令和元年9月末時点）

出生数： 827人（令和2年1月1日時点）

合計特殊出生率： 1.41（令和元年時点）

【概況】

〇事業開始：平成30年度

〇対　　象：5歳児とその父親（両親での参加も可能）

〇実施頻度： 年2回

〇募集人数（1回あたり）： 15組

〇担当部署：健康子ども部健康増進課健康支援係

〇担当者　：保健師1名、理学療法士1名、管理栄養士1名

運動指導：エアロビクスインストラクター1名（外部講師）

事業のスローガン： 30～50歳代の男性をターゲットに運動に対する動機付けを行い、日常生活において運動を意識的に行えるよう支援する。

事業名：パパのための運動応援講座
＆子ども簡単おやつクッキング

実施時期：5月、11月

実施場所： 5月　中央駅前地域交流館、
11月　ふれあいセンターいんば

取り組みの経過

当市の「第2次健康いんざい21～印西市健康増進・食育推進計画～改訂版」の基本目標の一つに「身体活動量の増加と運動習慣の確立」がある。その行動目標として、「日常生活のすき間時間の中で、気軽にできる運動を継続しよう」「ライフステージごとにしっかりとした運動を習慣化しよう」「介護予防を意識して身体を動かそう」という目標がある。
成人の運動習慣がある人の割合は特に30歳代が2割未満と低い。また、20歳代の時と比べて運動習慣がかなり減少していることから、30歳代の男性を本事業のメインターゲットとした。30代、40代の男女それぞれ運動習慣がある人の割合も低いため、両親での参加も可とした。

2019年度　取り組み内容（実施状況）

・父親（と母親）が運動を行っている間に、子どもは簡単なおやつ作り（フルーツ白玉）と、試食を行う。
・運動の内容はエアロビクスを60分、体力測定を15分行う。
・運動終了後に運動に関するミニ講話を10分行う。
・子どもの試食終了後に、父親（と母親）と一緒に親子で体を使った遊びを15分行う。

工夫点

・運動講座のみであると、参加者が集まりづらいため、子どもの「おやつ作り」を同時に開催した。
・市の広報紙、市内の保育園、幼稚園の対象クラスにちらしを配布した。

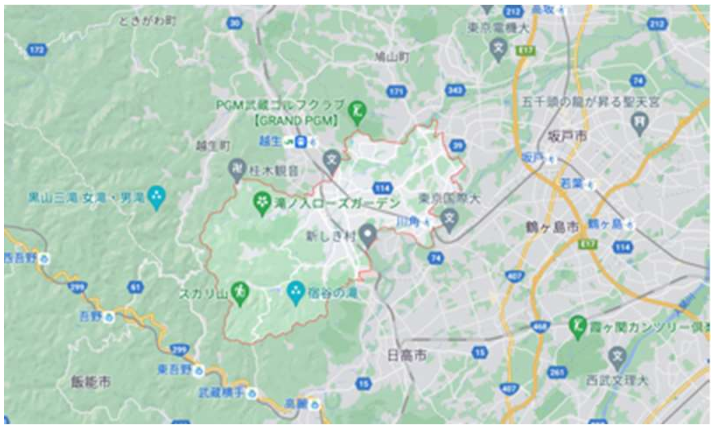
課　題

・運動習慣の動機付けにはなったようであるが、継続的な運動習慣の定着には課題がある。課題を踏まえ、2年目は市内運動施設の紹介や、日常の親子遊びで体を使った遊びの紹介などを行った。
・新型コロナウイルス感染症が蔓延するなか、試食を伴う事業や人を集めて実施する事業ができず、本事業も中止のままである。

取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

令和元年　5月26日　　実施人数12組
令和元年11月24日　　実施人数12組
・当初、各日程で15組の申し込みだったが、当日キャンセル等で参加人数が12組となった。
・子どものおやつ作り、運動の内容、親子遊びなど全体的に好評であった。
・参加者からはまた参加したいとの声が多くあった。

3-7.自治体好事例調査報告　　埼玉県毛呂山町



【面積】34.07 ㎢
【地勢】山地と平野を有する多様な地形で、豊かな自然に恵まれています。
西部に広がる山地は外秩父山地の東縁部にあたり、一部が県立黒山自然公園に指定されています。
中央部から東部にかけての平地には住宅地と水田地帯が広がっています。
都心まで50km、1時間圏内のため、宅地化が進んでいます。

【地域の概要】
総人口世帯数：33,100人（令和3年7月1日）

高齢化率：34.8%（令和3年7月1日）

出生数： 110人（平成31年1月~令和1年12月）

合計特殊出生率： 0.73（平成31年1月~令和1年12月）

【概況】

〇事業開始：平成28年度

〇対　　象：概ね就学前

〇実施頻度：不定期

〇募集人数（1回あたり）： 10組程度申込順（現在は5組）

〇担当部署：子ども課

〇担当者　職種　人数：
2名【うち1名正規職員（子育て支援員）
1名は子ども課職員又は任用職員】

事業名　：パパと遊ぼう！

実施時期：年5回程度　土曜日又は日曜日

実施場所：子育て支援センター、消防署、
総合地域支援センター「ワンダーハウス」等

取り組みの経過

平成28年度、埼玉県の研修がきっかけとなり父親向けの事業を開始。土日休みの父親が多いと思い、土日を対象に事業を検討。消防署見学、講師を招いた体を使った遊び、子育て支援センターでの遊び等を実施した。当初、父親が参加し母親にはリフレッシュの時間となるのではと考えていたが、ご家族での参加が多く、夫婦で子どもとの時間を共有できる場、祖父母も含めた家族で楽しめる場となっている様子。

2019年度　取り組み内容（実施状況）

・6月15日（土）：消防署見学【子18名、大人18名（うち父8名）※12組】
・7月14日（日）：ワンダーハウスで遊ぼう【子12名、大人17名（うち父9名）※9組】
・9月28日（土）：子育て支援センターで遊ぼう【子8名、大人10名（うち父5名）※7組】
・11月30日（土）：高速道路の作業者見学【子17名、大人18名（うち父7名）※9組】
・2月16日（日）：ワンダーハウスで遊ぼう【子13名、大人17名（うち父8名）※9組】
＊令和元年度事業参加父親数計：37名

工夫点

・土日に実施　・事前周知（HP等）・父が興味ありそうなイベント内容・参加者にささやかなプレゼント
・実施後、その様子をHP掲載（参加者増）

課　題

・参加については、こちらから声をかけたり、電話でお誘いしているのが現状。
・事業の中で父親同士の交流にもつながればよいが、そこまでは至っていない印象。
・事業により父と子どもとの時間や家族で楽しめる時間が増えるきかっけになっているとよいが、その後の調査はしておらず、各家庭の子育て環境にプラスの影響を与えられているかは不明。

取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

・アンケートで「とてもよかった」「よかった」等の声を多くいただいているため、実施してよかったと思っている。
・アンケート内容を今後に反映し、利用者が参加しやすい内容になるよう努めている。
・地域の交流にもつながり、よい事業だと感じる。
・現在コロナのため実施縮小となり、残念に思う。

3-8.自治体好事例調査報告　　新潟県新発田市

【面積】　533.10 ㎢

【地勢】新潟県の北部に位置する中核都市
　古くからの城下町として県北の行政・産業・経済・教育・文化の中心的都市として発展する一方、海あり山ありの自然豊かな土地。良質で豊富な水源を持ち、稲作や日本酒造りが盛んな地域
　新潟市のベットタウンとして居住する人も多いが、郊外にショッピングセンターが出店し、新興住宅街が造成されている。そのため、ドーナツ化現象が進み、中心商店街の衰退は加速している。
　人口減少対策の効果により人口減少は緩やかであるが、高齢化率は30%を超え、徐々に上昇している。

【地域の概要】
総人口世帯数：　96,374人

世帯数：36,987世帯

高齢化率：32.0%

出生数：　593人

合計特殊出生率：　1.37

※出生数・合計特殊出生率は令和元年の値、その他は、令和2年9月30日現在の値

事業のスローガン：父親が主体的に育児ができるようになるための「新発田市版父子手帳」

事業名　：「新発田市版父子手帳」

実施時期：平成30年8月8日(パパの日）から妊娠届時に市の窓口で母子手帳と一緒に父子手帳の交付を開始

実施場所：市の窓口

取り組みの経過

「父親の父性の醸成、積極的な育児参加への意識の高揚」を目的として、2018年2月からファザーリング・ジャパン新潟と新発田市健康推進課で「新発田市版父子手帳」の作成・配付に取り組んだ。

●父子手帳作成打ち合わせ会議（2018年）メンバー：ファザーリング・ジャパン新潟（以下、FJN）及び新発田市
　2月1日　第1回会議　　・作成のコンセプトを共有し、互いの意見を反映しながら協働で作成することを確認
　4月26日　第2回会議　　・FJNから作成方針の提案と意見交換
　5月14日　第3回会議　　・FJNから作成方針の説明

●父子手帳交付式典（2018年8月8日・パパの日）
　記念講演　講師：大阪教育大学　准教授　小崎恭弘　氏　　演題：「育児を楽しむパパになる」

※その他、男性の働き方やワークライフバランスに関する意識などを把握するために、市民や母親サークルからも意見をもらった。

2019年度　取り組み内容（実施状況）

＜子どもと共に成長できるパパ＞父親と子どもの成長記録として、父親が自分のものとして活用できるように、写真を張ったりその　時々の父親の気持ちを書き込めるものにする
＜育児に積極的に参加できるパパ＞父親目線を大切にし、父親が育児や家事を主体的に取り組めるような内容にする
＜家族と一緒に子育てを作りあげるパパ＞母子手帳と「対」の物と考え、父親と母親が2冊の手帳を共有して、妊娠初期から夫婦で育児を一緒に考えられるようにする
＜育児を楽しむパパ＞父親サークルの紹介や先輩パパからのアドバイス等を掲載し、父親も仲間づくりをしながら楽しく育児ができるようにする

工夫点

●父子手帳を意識してもらう機会を増やす
　・母親から父親に活用の声かけをしてもらう　・マタニティ教室や乳幼児健診で父親に直接声かけをする
　・母子手帳と一体的に保管してもらい目に触れる機会を増やす（母子手帳カバーの工夫）
●父子手帳の価値を高める
　・掲載内容の充実を図る（遊び場や子どもと一緒に活用できる場所の紹介など）
　・胎児エコーの写真や新聞の「うぶ声欄」などを貼るページを設ける
●活用の機会を設ける
　・マタニティ教室参加時に写真を撮って記念に手帳に貼れるようにする　・父親への保健指導の際、父子手帳を活用する

課　題

取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

・母子手帳交付に夫婦で来所した場合は、父親にも父子手帳の使い方を説明し、父親からは「父親になる実感が沸いた」「母と協力して育児していきます」等の声が聞かれた。
・一方、令和元年7月～12月に乳児健診来場者に実施したアンケート（対象者319人・回答者256人）では、父親の父子手帳の活用状況について「交付時のみ目を通した　55%」「全く読んでいない　30%」「定期的に活用　5%」「未記入10%」という結果だった。

3-9.自治体好事例調査報告　長野県小諸市

【面積】98.55　㎢

【地勢】東西12.8ｋｍ　南北15.4ｋｍ

【地域の概要】

総人口世帯数：　19.009世帯（令和3年8月1日現在）

高齢化率：　32.20%（令和2年4月1日現在）

出生数　：　268（令和2年度）

合計特殊出生率：1.6（令和2年度）

事業のスローガン：父が妊娠中から産後の母の心と体の変化を知ることで、産後の育児について両親で話ができ、周産期・育児期における母親が心身共に安定した生活が送れる。

事業名　：プレパパスクール（両親学級）

実施時期：年3回
（令和3年度は6月、10月、2月開催予定）

実施場所：小諸市役所2階　保健センター

【概況】

〇事業開始：平成29年12月～

〇対　　象：妊娠中の夫婦

〇実施頻度：年3回

〇募集人数：20組／回　（ただし令和2、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、縮小し12組/回で実施。）

〇担当部署：健康づくり課　保健予防係

〇担当者　職種　人数：助産師3名、保健師2名

取り組みの経過

平成29年度　開催回数：1回　参加者：34名　　平成30年度　開催回数：3回　計：91名

令和元年度　開催回数：　3回　計：96名　　令和2年度　開催回数：　3回　計：62名

2019年度　取り組み内容（実施状況）

令和1年度7月、12月、2月開催
・講義（助産師）：産後のママの体と心の変化、男女の脳の違いについて
・抱っこ体験、胎児への声掛けと触り方、妊婦体操、妊婦ジャケットの着用体験等
・グループワーク：パパグループとママグループに分かれて意見交換。
　ママグループ　妊娠中の楽しみ、今大変なこと、妊娠中・産後パパにしてほしいと思っていることなど。
　パパグループ　妊娠・出産で楽しみにしていること、ママや赤ちゃんにしてあげたいこと、妊娠・出産について助産師さんに聞いてみたいこと、知りたいことなど。　最後に各グループで出た意見を発表し、全体で共有。

工夫点

＜パパの妊婦体験＞妊婦ジャケットを着用し、妊娠期のお腹の重さや生活動作を体験することで、妊娠中の大変さを共感してもらう。
＜抱っこ体験＞ベビー人形を用いて抱っこの仕方やおむつ交換の体験してもらい、育児手技の獲得だけでなく、夫婦で子育てに関する共通の話題を作れるようにする。
＜グループワーク＞パパグループ、ママグループに分かれた意見交換と、最後に全体での共有を行い、パパ・ママの思いの違いについて知ることや夫婦で話をすることの大切さについて知ってもらう。

課　題

　コロナウイルス感染症の影響もあり、産科での教室開催も少なくなり、市の教室参加の需要が高まっている。
しかし、市でも人数制限をせざるを得ない現状であり希望者の全ての方の参加が難しい。

取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

＜男性＞
　・抱っこ体験が出来て良かった。・他のパパの思いが聞けたので自分としても楽しみが増えた。・ママのサポートをしたいと思った。
　・出産のサポートの仕方や赤ちゃんとママへの接し方を知れて良かった。
＜女性＞
　・パパの意見が知れて良かった。・旦那さんと一緒に赤ちゃんのことを学べたので良かった。・パパが抱っこの練習が出来て良かった。
　・他の妊婦さんとお話しする機会があってよかった。

3-10.自治体好事例調査報告　　福井県坂井市

【面積】209.67㎢

【地勢】坂井市は福井県の北部に位置し、南北約 17ｋｍ、東西約 31ｋｍにおよぶ東西に長い行政区域で、総面積は約 210ｋ㎡です。西は日本海に面し、東は勝山市、北はあわら市および石川県、南は福井市および永平寺町に接している。

【地域の概要】

総人口世帯数： 32,518世帯（令和3年8月）

高齢化率： 28.8%（令和3年8月）

出生数　： 570（令和2年1月～12月）

合計特殊出生率： 1.67（平成30年）

【概況】

〇対　　象：市内の妊婦とその家族

〇実施頻度：2コース制。A＋B＝計6回

〇募集人数（1回あたり）：10組

〇担当部署：健康福祉部　健康増進課

〇担当者　　：保健師・管理栄養士等

事業のスローガン：親としての自覚をもち、父親への家事・育児参加を促す。母親や、父親同士の交流をはかる。

事業名　：「パパママレッスン」2コース制で実施。
　　Aコース（母親向け講座）・・3回/年
　　Bコース（父親向け講座）・・3回/年

実施時期：Aコース（5月、9月、1月）
　　Bコース（6月、10月、2月）

実施場所：坂井市健康センター（福井県坂井市坂井町上新庄28-5-3）

取り組みの経過

・Aコース（母親向け講座）…年3回　助産師・管理栄養士の講座
・Bコース（父親向け講座）…年3回　NPO法人　おっとふぁーざー代表　舘　直宏氏の講演「パパとママからのプレゼント」
　沐浴体験・ミルク作成体験

2019年度　取り組み内容（実施状況）

・Aコース2回、Bコース2回実施　・内容は上記参照。　・坂井市ホームページにて、講演の様子を動画で掲載。

工夫点

Bコース（父親向け講座）について
・父親も参加できるよう、日曜日の午前中に開催している。
・男性の講師を招き、父親目線での講演を実施し、　興味関心をひきやすくする。
・沐浴やミルク作成の体験を取り入れ、より育児をイメージしやすくしている。

課　題

・定員に達してしまい、講座を受けれない場合がある。

取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

【父親参加者】
・父親の活躍が重要になるというのが印象に残った。
・産前産後の生活についてイメージができた。
・自分が思っている以上に準備することがあり、参考になった。
・沐浴やミルク作成など、赤ちゃんが生まれてからすぐに必要になるスキルを実践で学ぶことができ、参考になった。
【母親参加者】
・夫と参加でき、出産までに話し合う内容などを教えてもらえてよかった。
・パパのための話が聞けてとてもよかった。2人で子育てを楽しみたい。
・沐浴やミルク作成を、はじめて夫ができたことがよかった。
【担当者】
・父親向けの講座は、毎度定員に達しており人気講座となっている。父親の参加率は8割程度である。アンケートから、講座は、父親の自覚や、家事・育児参加を促すきっかけになっていると感じる。今後も父親向けの講座を継続し、積極的に家事育児に参加できるよう支援していきたい。

3-11.自治体好事例調査報告　　山梨県市川三郷町

【面積】75.18㎢

【地勢】山梨県の1、7%を占める。曽根丘陵性山地、富士川に囲まれた平坦地と山間地が広がる

【地域の概要】

総人口世帯数： 15,297（世帯数：6,670）

高齢化率： 37.6%

出生数　： 87（令和2年度）

合計特殊出生率： 1.50（平成31年）

事業のスローガン：妊娠期から親としての自覚を得ることができ、出産後夫婦で互いに支えあい、子育てをすることができる。

事業名　：パパママ学級

実施時期：年3回(6月、10月、2月)

実施場所：市川三郷町　健康管理センター

【概況】

〇事業開始：平成17年

〇対　　象：妊娠5か月以降の妊婦とその夫、パートナー

〇実施頻度：年3回

〇募集人数（1回あたり）：制限は特に設けていない

〇担当部署：いきいき健康課

〇担当者　職種　人数：保健師、助産師各1名

取り組みの経過

核家族化が進み、夫婦で子育てをする世帯が多くなっている。地域の関係性も希薄になり、身近に相談者も少なく、唯一の協力者の夫からの協力が得られないことも多い。妊娠中より夫婦でお腹の中にいる子どもの命を大切に思いながら、お互い支えあい、夫婦で協力して育児ができる支援としての教室を実施した。

2019年度　取り組み内容（実施状況）

年2回の開催
・DVD鑑賞（妊娠の仕組み、胎児の成長、生命の誕生について/沐浴・スキンケア方法について）
・妊婦疑似体験（夫に妊婦ジャケットを着用していただく）
・育児手技の練習（抱っこ、オムツ替え、着替え等）
・フリートーク（パパ、ママに分かれて）
・おやつの試食（鉄分、カルシウム豊富な手作りデザート）とメニュー紹介

工夫点

フリートークなどでざっくばらんに話ができることで（雰囲気作り）、交流が持ちやすく、思いの共有ができ、育児への不安軽減につなげられるように工夫した。
育児経験のある参加者の方から、お話しをしてもらうことで、より身近に感じられ、育児へのイメージにつながるよう工夫した。

課　題

記載なし

取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

・胎児の成長や生命の誕生について、妊娠の奇跡や、目まぐるしい胎児の成長について知ることができ、改めて尊い命であることを再確認できた。
・妊婦疑似体験では、妊婦の大変さ（行動制限や腰痛などマイナートラブル）を知ることができ、母を労わる様子もあり、育児への参加、協力に対して意識も高まっていた。
・育児手技練習では、新生児の特徴を踏まえながら、抱っこやオムツ、着替えなど行い、具体的な育児へのイメージにつなげられていた。
・父、母で分かれてのフリートキングでは、それぞれ交流もでき、貴重な場となっていた。仕事をしながら、どのように母をサポートしていったら良いのか、母も育児と家事の両立など、様々な不安もある中で、思いの共有や育児経験のある母や父からのアドバイスもあり、不安の軽減や励ましにもつながっていた。
・助産師からの産後メンタルヘルスについて、家族サポートの大切さについての話があり、役割分担など妊娠期から話す機会をもつことで、より具体的にサポートへのイメージにつながっていた。

3-12.自治体好事例調査報告　　山梨県上野原市

【面積】170.57 ㎢（県土の3.8%）

【地勢】当市は山梨県の最東部で南北21.6ｋｍ、 東西15.3ｋｍ。首都圏から約60～70ｋｍ圏に位置し、東は神奈川県相模原市、南は山梨県道志村、西は山梨県大月市と都留市、北は山梨県小菅村と東京都西多摩郡と隣接している。首都東京を中心とする関東圏から山梨県への東玄関口として重要な交流拠点となっている。山岳・段丘・河川が作り出す自然環境は、日照時間が長いなど様々な自然の特性に恵まれている。桂川や秋山川はともに相模原水系であり、神奈川県にける主要な水道供給源となっている。

【地域の概要】（最新の統計　各項目令和3年4月1現在）

総人口世帯数：22,518人　10,055世帯
高齢化率：　37.1%
出生数　：　76人
合計特殊出生率：1.16（2013～2017年平均）

【概況】

〇対　　象：妊娠5か月～8か月の妊婦とその夫

〇実施頻度：年4回（1コース4回　3回目午前に実施）

〇募集人数（1回あたり）　：特に設けていない

〇担当部署：福祉保健部子育て保健課

〇担当者　職種（スタッフ）　：土曜開催は保健師2人

事業のスローガン：
妊娠中、高血圧や体重増加、メンタル等注意し、元気に過ごす
出産・育児のイメージをつかんで赤ちゃんを迎える準備ができる。
同じ時期に出産する人たちと知り合う場となり情報交換できる。

事業名　：ママパパ教室

実施時期：4月・7月・10月・1月（年4回）1コース4回

※父の参加できる講は1コースの3回目土曜午前に実施

実施場所：上野原市総合福祉センターふじみ　2階

取り組みの経過

以前に父親が参加する機会を設けたが、参加が少なく取りやめた経過がある。2018年度参加した妊婦から要望あったため内容を見直し、父親が参加しやすいように土曜日開催として取り入れ、2019年度父親が出席できる講を再開する。内容は入浴やおむつ交換、調乳といった育児参加だけでなく、妊娠中出産後の妊婦の心や体の変化についての理解、妊娠中・出産後の家族の関係から夫婦間の話し合いの必要性などを取り入れる。

2019年度　取り組み内容（実施状況）

・1コース4回、年間4コースで引き続き実施。仲間づくりを意識した内容にし、毎回参加者同士が話をする時間を意図的に取り入れ、また父親が参加できるよう1コースの3回目を土曜日午前開催する
・土曜の午前に父が参加しやすいように設定。内容として1.妊婦さんの体や心の変化（講義）2.育児参加の必要性・方法（講義）3.沐浴、おむつ交換の方法などについて（シュミレーション）4.赤ちゃんの泣きについて（ビデオ）などを取り入れ、妊娠・出産・育児について理解してもらう機会を意図的に作った。
年度途中から1、2を聞いて夫婦間での話し合いや他の夫婦とのグループワーク、グループワークの共有の時間も取り入れた。

工夫点

・父親の参加する講は、理解し実践しやすいよう講義と実践・ビデオ鑑賞を取り入れる。また、出産により家族状況が変化してくるので夫婦間の話し合いに加え、グループダイナミクスを取り入れた。

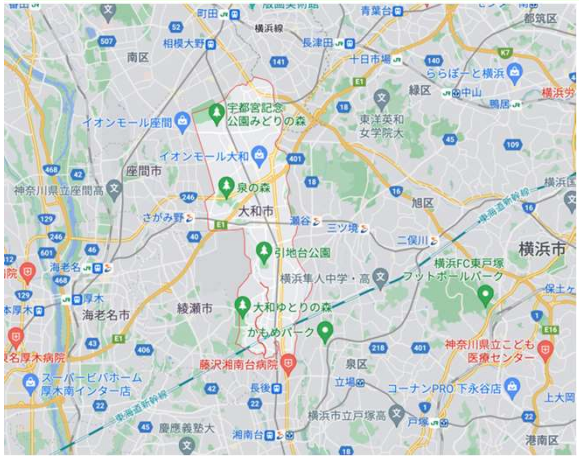
課　題

・講議では父親の反応がわかりにくいがグループワークを取り入れたり、アンケートの記入　により、父親の考えていること、思っていることがわかったので他の夫婦の状況を知る機会にもなり、参加者同士が話せる機会を継続する。
・伝えたい内容が盛りだくさんで予定時間を過ぎてしまう。内容を厳選する必要あり。

取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

・参加率　指標　初産婦50%以上→　57.9%（前年度より+0.3%）
　　経産婦35%以上→　35.6%（前年度より+7.6%）
・満足度（母親）　4回目の参加者が実施回数や内容良かったと回答（93.3%）
・母の参加者38人（初産婦22人　経産婦16人）参加率45.2%
　父の参加者13人　参加率19.0%　　延べ父母参加者99人
・参加した父のアンケート内容から参加してよかったと好印象の意見が多かった。また、グループワークや沐浴の実践など印象に残っている回答が多い。→土曜午前開催は同様に行う。内容は妊婦さんの体や心の変化、父親の育児参加の必要性、家族で話すことの必要性。沐浴・更衣など育児方法、赤ちゃんの泣きのビデオ鑑賞により理解を勧める。
・母親同士の交流にお菓子作りもよかったという声もありコミュニケションの場にもなっているため次年度も継続。

3-13.自治体好事例調査報告　　神奈川県大和市



【面積】27.09 ㎢

【地勢】神奈川県のほぼ中央に位置し7つの自治体と接しています。丘陵起伏がほとんどありません。都心から40㎞圏内3つの鉄道が東西南北に走り、東京へ1時間弱、横浜へ20分で行くことが可能です。市内には8つの駅があり、市域のほとんどが駅まで徒歩15分圏内にあります。

【地域の概要】

総人口世帯数：112,156世帯(令和3年8月1日現在)

高齢化率：23.91%(令和3年8月1日現在)

出生数：1,899人(平成30年)

合計特殊出生率： 1.37(平成30年)

【概況】

〇事業開始：平成27年

〇対　　象：初産婦とその夫。乳児を育てる夫婦

〇実施頻度：年3回

〇募集人数（1回あたり）： 15組

〇担当部署：大和市こども部すくすく子育て課母子保健係

〇担当者　職種　人数：保健師　3名、外部講師　1名

事業のスローガン：これから父親になる男性に、心構えや育児の楽しさを知ってもらい、夫婦で育児に取り組むことの大切さについて考えるきっかけとする。

事業名　：やまとイクメン講座

実施時期： 6月、11月、2月（年3回）

実施場所：大和市保健福祉センター、地域医療センター

取り組みの経過

妊娠をきっかけに夫婦、家族のつながりを見直す機会を築いていきたいという思いから講座を立ち上げました。妊娠中または育児をしている夫婦を対象に、育児についての知識の向上とともに、父親が育児を楽しみながら地域とのつながりや活性化を図ることを目的と市、イクメン講座を実施しています。

2019年度　取り組み内容（実施状況）

ワークショップ型両親学級です。外部講師を依頼して実施しています。
内容は、講話「サンクスカップルになろう」、グループワーク(相手にサポートしたい・してほしいこと等)、産後育児にまつわるクイズ(愛着形成について、産後うつ、揺さぶられ症候群について)、妊婦・育児体験です。
講座は、全て土日の午前中開催としており、働く妊婦・産婦、夫も参加しやすいような日程をとっております。令和元年7月7日は妊婦・産婦16名、夫16名、乳児1名の参加、令和元年11月17日は妊婦・産婦17名、夫18名、乳児4名の参加で、ご夫婦での参加がほとんどでした。新型コロナウイルス感染症の影響で1回中止となっています。乳児の参加が多い際には、室内に授乳コーナーを設けるなど工夫をしました。

工夫点

・コロナ下で、同じ境遇の方と話をする機会もないことから、感染症対策を徹底したうえで、グループワークを取り入れています。
・グループワークでは、最寄り駅ごとに分かれていただき、住まいの近い方での交流を持つことができるようにしています。
・育児体験ができるよう、妊婦体験物品や、赤ちゃん人形を用意しています。休憩時間や集合時間より早く来所された方、ご希望のある方が体験をされています。

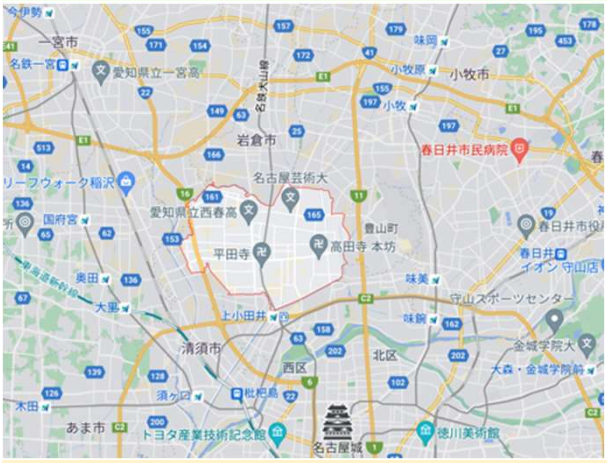
課　題

・イクメン講座が母親学級の内容（沐浴などの実習、妊娠・出産・育児に関する専門職からの講義等）を学ぶ講座と思っていた方がいました。予約時に内容を正しく伝えていく必要があります。妊婦・夫のニーズに合わせて、母親学級の参加も促していきます。

取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

・グループワークを通して、同じ境遇の方と話ができてよかった、情報交換ができた、という声が多く聞かれました。
・夫婦で産後のことについて話をする機会をきちんととれていなかったため、改めて「自分は何ができるのか」「相手は何をしてほしいと考えているのか」を考えることができたという声が多く聞かれました。アフターバースプランを考えるきっかけになったのではと考えます。
・受講終了時のアンケートの意見を次の講座に活かすように取り組んでいます。

3-14.自治体好事例調査報告　　愛知県北名古屋市



【面積】18.37 ㎢

【地勢】愛知県の北西部に位置する。

平成18年3月20日に師勝町と西春町の合併により誕生。東に豊山町、西に清須市、南に名古屋市、北に小牧市、岩倉市及び一宮市に接している。
東西約6km、南北約4km。
ほぼ全域が名古屋市の都市部から10kmに位置している。

【地域の概要】
総人口世帯数： 86,197人（37,417世帯）
（令和2年3月1日）
高齢化率： 24.0%（令和2年3月1日）
出生数： 779人（令和元年度）
合計特殊出生率： 1.53%（令和元年10月1日）

【概況】
〇事業開始：平成15年から（平成12年より母親教室として実施。パパママ教室の名称では平成15年からとなる。）

〇対　　象：妊婦とその夫

〇実施頻度：平成25年より年8回の開催

〇募集人数（1回あたり）：応募人数による

〇担当部署：妊娠編→健康課、育児編→健康課、児童課

〇担当者　職種　人数：
妊娠編：保健師3人、臨床心理士または元学校教師1人、保育士1人、助産師1人、管理栄養士1人
育児編：保健師2人、支援センター職員（保育士）3人

事業のスローガン：育児経験のない妊婦が育児と子どもへの理解を深める。父親の育児参加を促す。

事業名：パパママ教室(妊娠編)、パパママ教室（育児編）
※ここではパパママ教室（妊娠編）について記載する

実施時期：妊娠後期の妊婦を対象に実施

実施場所：北名古屋市　健康ドーム

取り組みの経過

平成12年度から育児経験のない妊婦に交流会を通し、育児と子どもへの理解がされるよう育児経験者の母親とその子ども（おおむね6か月児）とともに参加協力を得る。
平成14年度からは臨床心理士を講師に“親子の関係”という内容を加える。
平成15年度からは、パパにも参加してもらえるよう「パパママ教室」に名称変更。そして、土曜日開催に。
平成16年度からは平日と日曜日に開催し、パパの参加を図ると同時に経産婦の方も参加しやすいように託児も開始。
平成19年度より、パパの育児参加も得られるように妊婦の疑似体験や沐浴実習の経験、父親の立場の経験談を取り入れ実施。

2019年度　取り組み内容（実施状況）

2日間に分けて実施。
日曜日に、父親の役割についての講話とパパによる妊婦体験と沐浴実習等、交流会
月曜日に、助産師による分娩経過と呼吸法、おっぱいの準備について管理栄養士から妊娠中の栄養について講話を行う
人数については、日曜日開催は初産婦123人、経産婦6人、父親128人
月曜日開催は初産婦74人、経産婦2人、父親7人

工夫点

・年々、参加者が増加しているため、年8回に回数を増やし、定員枠の廃止を行った。

・平成26年度から日曜日・月曜日開催に。

・男性講師に講義をお願いしている。

課　題

・コロナ禍での開催において、参加者のニーズに十分に答える事ができていない可能性がある。

取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

・育児経験のある講師から、父親の役割についての講話をいただいた。これから父親になるに向けて経験談を聞く事で、見通しが持てるように、また出産前後の母の変化についての話を交えて頂き夫婦関係についても考えるきっかけとなったのではと考えられる。
・参加者のアンケート結果からは講義や沐浴体験等の満足度は、満足・おおむね満足と答えられる方が多数を占め、令和2年度のアンケート結果では妊婦に誘われ参加した父が約6割を占めていた。

3-15.自治体好事例調査報告　　愛知県名古屋市

【面積】 326.50 ㎢

【地勢】
・東経　136度47分30秒から137度3分39秒
・北緯　35度2分2秒から35度15分37秒
・東西　24.52km
・南北　25.13km

【地域の概要】
総人口世帯数： 1,125,357世帯（令和3年8月1日）

高齢化率： 25.1%（令和2年10月1日）

出生数　： 17,740人（令和元年度）

合計特殊出生率： 1.34（令和元年度）

事業のスローガン：共働きカップルの子育て応援します。

事業名：共働きカップルのためのパパママ教室

実施時期：土曜、又は日曜の午前と午後

実施場所：ZOOMを使用したオンライン教室

（令和2年度、3年度）

【概況】
〇事業開始：平成20年度

〇対　　象：おおむね妊娠6か月～7か月頃の妊婦と、
そのパートナー（共働きである事が条件）

〇実施頻度：月2～3日（延べ4～6回）

〇募集人数（1回あたり）：定員20組

〇担当部署：名古屋市子ども青少年局
子育て支援部子育て支援課

〇担当者　：愛知県助産師会へ委託

取り組みの経過

令和2年度は全52回実施。令和3年度は72回実施予定。

2019年度　取り組み内容（実施状況）

・母子手帳発行時に共働きでの子育てを考えているか確認し、共働きカップルのために情報を集約した冊子を配布している。教室参加は別途申込制をとっており、教室で配布した冊子を使用している。
・共働きの育児ポイント（本市の利用できる制度、保育園への就園、家事分担など）を情報提供や助産師による赤ちゃんのお世話についての講話を実施。参加者を数名に分けて情報交換を実施している。

工夫点

・家事分担表を使用し、子育て後の夫婦内での家事分担を可視化する。
・自宅にあるぬいぐるみやまくらなどを赤ちゃんに見立て、抱っこや沐浴の練習を教室内で実施している。

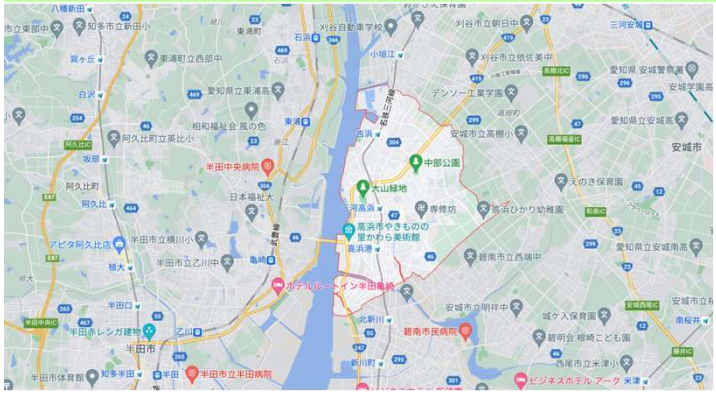
課　題

・父親のうつ防止、父親の孤立に対する支援を教室内で実施するにあたり夫婦それぞれにバランスよく伝えることが課題。
・今年度オンラインで開催している教室を感染症の状況を見ながら次年度以降どのように実施していくか。

取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

・令和2年7月より新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、実会場での対面式教室を休止しZOOMを使用したオンライン教室で対応している。令和2年度は計52回教室を開催し、1353名（夫672人、妊婦681人）が参加した。抽選倍率は0.82倍。
・参加者からの評価
　令和3年4月～6月参加者アンケートより94.5%のカップルより他の共働きカップルにも参加を進めたい、との回答を得た。

3-16.自治体好事例調査報告　　愛知県高浜市



【面積】13.11 ㎢

【地勢】日本のほぼ中央にある愛知県三河平野の南西部に位置。

中部地方の中心都市である名古屋市から南東へ25キロメートルのところにあって、東は安城市、西は衣浦港をへだてて半田市、南は碧南市、北は刈谷市に接している。

東西4.2km南北5.5km面積は13．11平方kmで、地質については、洪積地と沖積地に分けられるが、大部分は洪積地からなっており、比較的新しい第4紀層新世代の発展したもので、標高5mの洪積台地と河川流域及び海岸一帯の沖積層の標高2mの低地よりなっており、海岸線は延長5.4kmにおよび衣浦大橋によって知多半島と結ばれている。

【地域の概要】
総人口世帯数： 49,257人（令和3年4月1日）
高齢化率： 19.15% （令和3年4月1日）
出生数　： 398人（平成29年）
合計特殊出生率： 1.35（平成29年）

【概況】
〇事業開始：平成27年度開始
（コロナ感染症拡大により、R2年3月まで実施）
〇対　　象：4ヵ月健診参加の父親と児
〇実施頻度：月1回
〇募集人数（1回あたり）：特になし

〇担当部署：高浜市福祉部健康推進グループ

〇担当者　：産師（1人）、子育て支援センター（1人）

事業のスローガン：妊娠期には父親と関わるのはパパママ教室のみとなっており、父親教室の場が 限られている。一方で、4か月児健診に来所される父親も以前よりも増え、ほぼ 毎月の健診に父親が来所されている状況である。市で受診する最初の健診であり、この4か月児健診の場を活用し、父親の子どもとの触れあい方や育児についての知識を深める機会とする

事業名：パパさろん

実施時期：毎月１回（4か月児健診と同時開催）

実施場所：高浜市いきいき広場　健康ホール

取り組みの経過

平成27年度から実施。

令和2年度から新型コロナウイルス感染拡大のため中止。

2019年度　取り組み内容（実施状況）

事業目的：4か月児健診に来所した父親を対象に、父親が子どもの成長発達などを知る機会となり、ふれあい遊びなどを通して父親も育児を楽しむことができるようなきっかけとなる。
対象者：4か月児健診に来所された父とその児（2～27組／回）
内容：20分程度。成長発達、乳幼児揺さぶられ症候群などの講話。親子遊び（ふれあい遊び、ベビーリフレクソロジー）を通して、子への関わり方を父に伝えていく。

工夫点

・子育て支援センターの職員と助産師で実施。妊娠期から出産、産後と乳児に専門的な関わりができる助産師で実施した。
　また、より地域の親子に近い存在である子育て支援センターの職員で実施した。
・経産の父親から初産の父親に話ができるようにし、父親同士の情報交換をできるようにした。
・参加者の父親から土日の開催希望があり、子育て支援センターで同様な教室を開催した。

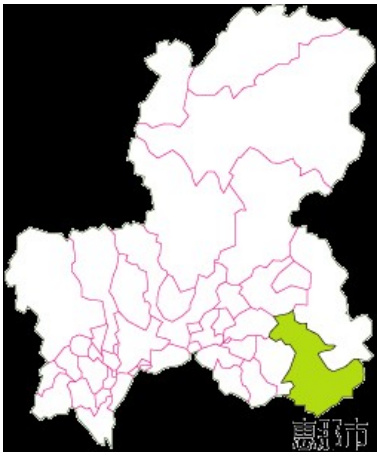
課　題

・外国籍の方が多いため、日本語が分からない方への対応。
・健診に来所される父は育児への積極性が伺える。一方で育児参加に積極的ではない父へは、保健センターから直接働きかける機会が少ない。
・平日に実施しており、働いてる方の参加が難しい。　・感染対策を講じながらの実施。

取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

2019年度　参加者アンケートより　　・第1子（84.5%）、第2子（12.1%）、第3子以降（3.4%）
・4か月児健診への参加理由①　仕事が休み（27.6%）、休みを取得した（63.8%）、夜勤入り又は明け（8.6%）
・4か月児健診への参加理由②　休みだった（12.3%）、健診に来たかった（38.5%）、ママに言われて来た（20.0%）、パパさろんに来たかった（23.1%）、その他（6.2%）
・内容について　良かった（73.3%）、まあまあ良かった（22.8%）、まあまあ良くなかった（3.5%）
・初年度の参加者数は66名であったが、2019年度は91名と増加傾向にあり、パパさろんの認知度や健診や育児に関心のある父親が増えているのではないかと考えられる。また2019年度の参加者数の内訳を比較すると、8月は27名とお盆期間であり多くの父親が仕事を休みで参加しやすかったと考えられる。

3-17.自治体好事例調査報告　　岐阜県恵那市



【面積】504.24 ㎢

【地域の概要】
人口：51,073人（平成27年10月1日　国勢調査）

世帯数：18,106世帯（平成27年10月1日　国勢調査）

高齢化率：32.6%（平成27年10月1日　国勢調査）

出生数：235人（令和2年度出生数）

合計特殊出生率：1.43（平成29年度統計）

事業名：もうすぐパパママ学級

実施時期：年6回（偶数月開催）

実施場所：こども元気プラザ

【概況】
〇事業開始：合併前の事業を統合して、平成16年の合併後から実施。

〇対　　象：初めての子どもの出産を迎える夫婦

〇実施頻度：年6回（隔月）

〇募集人数（1回あたり）：現在コロナ禍のため6組12名程度
コロナ禍でないときは対象数全員対象

〇担当部署：子育て支援課

〇担当者　：保健師1名
当日事業実施者　保健師2名、助産師1名、事務職2名

取り組みの経過

初めてのお子さんの出生を迎えられる夫婦を対象にした学級です。
この学級では、助産師によるワークショップ、疑似体験（妊婦体験、赤ちゃん人形による赤ちゃんの抱き方）
沐浴実習などを通じて、夫婦でどのような子育てをしたいか考えていきます。
※現在コロナ禍のため沐浴体験のみ実施中です。

2019年度　取り組み内容（実施状況）

上記と同様です。

工夫点

・コロナ禍で医療機関でも父親が沐浴体験をする機会が、子どもが自宅に来て実際に沐浴をさせるまで無い現状です。
・父親が沐浴を体験してもらえるよう感染対策をしながら継続して実施しています。物品の準備等もみてもらい、産前入院前の準備に役立ててもらっています。

課　題

・電話申し込み制でしたが、いつでも都合のよいときに申し込めるよう、アプリで入力する形式に変更予定。

取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

令和2年度参加者アンケートの感想の一部：
・沐浴のやり方がわかってよかった。細かいことまでわかった。ていねいでわかりやすかった。
・本日はコロナの影響もあり短い時間となってしまいましたが、有意義な時間を過ごさせていただくことができました。できれば、ミルクや授乳方法など詳しく知りたいなあと思いました。
・流れを覚えられたのでよかったです。背中に向きを変える時の支え方が難しい。前もって体験できたことで少し不安がやわらぎました。
・首が座るまではとても大変だと思いました。3キロの赤ちゃんが結構重いことがわかり、とても参考になりました。

3-18.自治体好事例調査報告　三重県名張市

赤目四十八滝

【面積】129.76 ㎢

【地勢】名張市は、
三重県の西部、伊賀盆地の南西部にあり、ちょうど近畿・中部両圏の接点に位置しています。山地の多い地勢には新鮮な空気と清らかな水とともに、風光明媚な自然に恵まれています。大阪方面のベッドタウンとして宅地開発が進みましたが、人口増加時の年齢層の偏りが大きく、現在は少子高齢、人口減少が急激に進んでいます。15の地域づくり組織の主体的なまちづくり活動が特徴です。

【地域の概要】
総人口：77,068人（令和3年8月1日現在）

世帯数： 34,679世帯（令和3年8月1日現在）

高齢化率： 33.1%（令和3年8月1日現在）

出生数： 472人（令和元年度）

合計特殊出生率： 1.36（令和元年度）

事業のスローガン：父親のための土曜子育て広場

事業名：サタパパ広場

実施時期：毎月第1土曜日

実施場所：名張市こども支援センターかがやき　吹き抜けホール

【概況】
〇事業開始：2009年（平成21年）5月2日

〇対　　象：父親・祖父・これから父親になる人

〇実施頻度：月1回2部制

〇募集人数（1回あたり）： 5組×2

〇担当部署：名張市こども支援センターかがやき

〇担当者　職種　人数：保育士　3名

取り組みの経過

職場以外のパパ友を作って、楽しく交流したり子育てについての話を気軽にしてほしいという思いから取り組みを始めました。

2019年度　取り組み内容（実施状況）

・4月「パパ友を作ろう」 ・5月「新聞紙遊び」 ・6月「さつまいもの苗植え体験」

・7月「サタパパコラボ企画　七夕飾り製作＆二胡かがやきコンサート」 ・8月「水遊びグッズ作り」 ・9月「体を使って遊ぼう」

・10月「ミニ運動会」 ・11月「サタパパコラボ企画　サツマイモ掘り＆児童虐待防止キャンペーンコンサート」

・12月「クリスマスカード（ポップアップカード）作り」 ・1月「サタパパコラボ企画　ロケット作り＆かがやきコンサート」

・2月「手作り楽器でパパコンサート」・・サタパパ広場でつながったパパ達3人でコンサート　・3月「親子記念製作＆サタパパ大賞」

工夫点

・さいころトーク（「趣味は？」「子どもが生まれる前と後の変化は？」などのテーマ）を取り入れ、パパ同士の会話のきっかけを作るようにしている。
・家庭でも簡単に再現できるようなふれあい遊びや製作遊びを考え取り入れるようにしている。

課　題

・土曜日にパパがお休みではない家庭やシングル家庭の子どもなどは、サタパパ広場のイベントに参加できない。サタパパ広場限定のイベントに「サツマイモ掘り」があり、「パパがいないと参加できないのか？」という声もある。サツマイモ畑が狭くイモ苗も少ないため、どうすればよいか検討中である。

取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

・パパがサタパパ広場に参加することで、ママは一人でゆっくり過ごす時間ができるなど、ママのリフレッシュにつながる。
・パパ同士の横のつながりが生まれ、趣味の音楽を通して活動が広がり、かがやきでコンサートをしていただいた。
・パパ同士が子どもへの思いや子育ての考え方などを話す中で、そばで聞くママが「パパがそんなふうに考えていたなんて知らなかった！」と新たな発見をし、夫婦の会話のきっかけにもなったようである。
・サタパパ広場で覚えたふれあい遊びを、家庭でパパと子どもが二人で楽しんでいた。

3-19.自治体好事例調査報告　　兵庫県西脇市

【面積】132.44 ㎢

【地勢】西脇地区、津万地区、日野地区、重春地区、野村地区、比延地区、芳田地区、黒田庄地区からなり、兵庫県のほぼ中央部、東経135度と北緯35度が交差する「日本列島の中心」に位置している。

【地域の概要】
総人口世帯数： 17,268（令和3年7月1日現在）

高齢化率：33.62%（令和3年7月1日現在）

出生数： 210人（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

合計特殊出生率： 1.68%（平成27年度）

【概況】
〇事業開始：平成26年度（別紙1に年度別の状況を作成しています。）

〇対　　象：次世代（中・高生）、現世代（子育て中）、祖父母世代（自身の子育てが一段落した人）、多世代、支援者（保育士、教諭、ボランティア、子育て支援施設職員など）

〇実施頻度：次世代5回、現世代4回、祖父母世代3回、多世代1回、支援者研修会1回　計14回

〇募集人数（1回あたり）：約30人

〇担当部署：西脇市都市経営部茜が丘複合施設

〇担当者　職種：一般事務職員　人数：1～2人

事業のスローガン：結婚・妊娠・出産・育児をしやすい地域づくりに向けた環境整備

事業名： 3世代パパ・ママ育て事業
（子育て世代の保護者や祖父母、子育てボランティアを対象に、子どもとの関わり方や育児についての講座を開催し、子育てや地域における仲間づくり、子育てボランティアの育成を目指します。また、将来の父母世代（中・高生）を対象に、命の尊さや家庭を持つことの意義を考える機会をつくります。）

実施時期：平成26年度～令和3年度継続中

実施場所：茜が丘複合施設、市内中学校・高等学校ほか

取り組みの経過

西脇市では、平成26年度に少子化対策事業として、NPO法人ファザーリング・ジャパン・関西に委託。翌平成27年度も引き続き委託した。ライフデザインハンドブック、西脇市父子手帳作成。
平成28年度以降は、委託せずに実施。親子参加型イベント（パパクエスト）のみ委託。

2019年度　取り組み内容（実施状況）

◎3世代パパ・ママ育て事業講座として
次世代講座：市内3中学校、市内3高等学校（内1高校は、2部制）で7回 569人受講
現世代講座：8回　278人受講。（内5回は、男女共同参画センターと合同開催）
祖父母講座：3回 48人受講。　支援者研修会：1回30人受講。
◎中高生を対象に西脇市ライフデザインハンドブックを配付。　◎妊娠届時こども福祉課で西脇市父子手帳を配付。

工夫点

次世代講座では、各学校の生徒の状況等に合わせた講師を学校と調整して実施した。
また、西脇市の子育て事情に合わせた講師選びを心掛けた。　教授・医師・社会保険労務士・臨床心理士等専門的な講師に加え、地域で活躍されている方にお世話になるなどバランスを取りながら開催した。

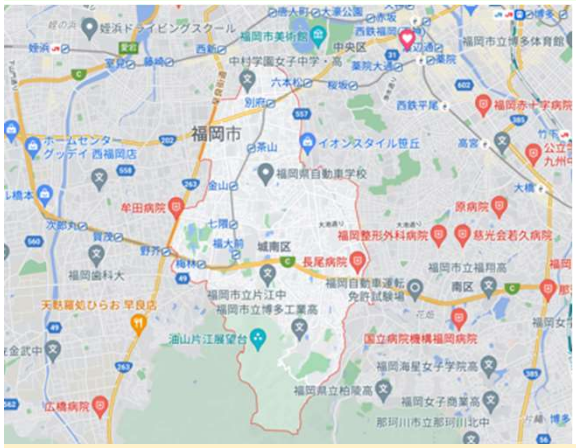
課　題

講座やイベントに参加される顔ぶれが定着してきている。孤立、孤独な子育て家庭をより把握し、多くの家庭が、誘い合って、参加したり、支援しあえる関係づくりができるようにしていきたい。

取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

◎次世代講座：自身の将来について考える（ライフデザイン）機会を提供することができた。また、学生たちからは、「結婚や子育てについても関心が持てる様になった。」「将来に向けて、目標をもって学生生活を過ごしていきたい。」という感想が多くあった。
◎現世代：子育てについての様々な知識を身に付けるとともに、同じ世代で情報交換するなど地域での繋がりを持つことができた。参加された保護者からは、「出生数が少なくなり、地域で子ども同士遊ぶことが少なくなってきた。親子での遊びや同じ子育て世代が、参加できる講座やイベントがあると嬉しい。」という声が多くあった。
◎祖父母世代：子育てが一段落した祖父母世代は研修により更に知識を得て、地域での子育て支援者としてのスキルを向上させることができた。参加者からは、「昔と今の子育て環境の違いを知り、子育地域での子育て支援や、孫育てに生かせる知識を身に付けるけることができた。」と満足していただけた。
◎子育てを通して、多世代が集うきっかけづくりになった。また、西脇市での子育てを楽しいと感じてくれる家庭や将来西脇市で子育てをしたいと思う生徒が増えた。

3-20.自治体好事例調査報告　福岡県福岡市城南区



事業名：子育てをする父親を応援するための
「パパスクール城南」

実施時期：2016年度～

実施場所：福岡市城南区保健福祉センター、福岡大学（2018～2019年度）
（ 2018～2019年度は福岡大学と一部合同開催。）

【面積】15.99 ㎢

【地勢】・城南区は、福岡市のほぼ中央部に　位置し、都心に近く自然に恵まれた住宅・文教地区。
・交通体系の整備が区の急務であったが、2005年に地下鉄七隈線が開通し、福岡外環状道路、都市高速5号線が整備された。
・戦後、大規模な住宅団地の建設が進み、人口密度も高く、今後は急速に高齢化が進行すると見込まれている。
・区内には2つの大学があり、学生をはじめとする単身者が多く、人口移動も多いのが特徴。

【地域の概要】
総人口： 126,238人(2021年7月末現在)
世帯数： 64,055世帯（2021年7月末現在）
高齢化率： 25.3%（2021年7月末現在）
出生数： 931人（2019年）
合計特殊出生率： 1.33（2015年※福岡市）

【概況】
〇事業開始： 2016年度
〇対　　象：父親になる予定の方、1歳未満の父親
〇実施頻度：年3回
〇募集人数（1回あたり）： 20人
〇担当部署：福岡市城南区保健福祉センター地域保健福祉課
〇担当者（職種）：保健師　（人数）4人

取り組みの経過

・保健師の母子保健活動を通し、育児負担や不安を抱える母親の傾向として、夫婦関係に課題を抱えている場合が多くみられ、一例として夫婦間でのコミュニケーションのずれが母親の育児不安やストレスのきっかけになっていることがわかった。このような背景から父親へ直接アプローチをすることが必要と考え、2016年度から「夫婦で協力した育児」の促進を目指し、夫婦間コミュニケーションを主軸とした父親向けの講座を開始。
・開始後は、参加数が伸びないことや交流会の満足度が低い等の課題に対し、アンケート結果や参加者の反応をふまえ、体験型の内容を増やす（2016年度2回目～）、交流時に先輩パパをファシリテーターとして配置する（2018年度～）等、適宜、内容や実施体制の見直しを行った。
・2018年度からは、保健福祉センターで実施する講座に加え、福岡大学が同様の目的で行っていた妊婦とそのパートナー向けの講座を合同開催し、お互いの特徴を生かした内容で実施した。

2019年度　取り組み内容（実施状況）

1．講座、交流会の開催
（1）プレママパパのワークショップ（福岡大学と合同開催）
【内容】1先輩ママからの出産・子育ての体験談、赤ちゃんとのふれあい体験　2夫婦コミュニケーションの講話　3子育て窓口紹介　4プレパパ向け交流会　5プレママ向け講話「小児科かかりつけ医をみつけよう、予防接種」 ※1～3は夫婦で参加、4、5は夫婦は分かれて参加
【対象】妊婦とそのパートナー（プレママパパ）　※プレママのみの参加も可
【回数】年2回（6月、11月）　【参加人数】6月：22人（夫婦9組）、11月：20人（夫婦8組）
（2）父親同士の交流会　【内容】イヤイヤ期の付き合い方の講話と交流会（交流会は、父親と母親は別で実施）
【対象】乳幼児の父親または両親（託児付）　【回数】年1回 【参加人数】19人（父親13人、母親6人）
2．父親の子育てを応援する会議の開催　【内容】父親の育児参加や夫婦コミュニケーションの大切さを広く啓発するための方法等の検討
【回数】年5回 【参加者】NPO法人ファザーリング・ジャパン九州、パパスクール城南受講者

工夫点

・講座開始当初から、NPO法人ファザーリング・ジャパン九州の協力を得て講座内容を一緒に検討したことで、父親の立場からの話や良好な関係を築くための具体的方法を提示することができ、参加者が理解しやすく、共感できる内容となった。
・先輩パパの参加等で父親同士がスムーズに交流できるようサポートし、父親が気持ちを表出したり、悩みを共有し、エンパワメントされる機会とした。
・参加動機は父親自身の希望よりも母親からの勧めの方が多かったことから、講座受講に消極的な父親を誘い出す工夫として、母親向けの内容も同時開催（託児付）し、夫婦で一緒に参加できるようにした。

課　題

・講座参加が難しい父親もいることから、講座以外の方法で継続したアプローチを行っていく必要がある。
・参加者からは「妻からのダメ出しが多い」等の意見も出たことから、父親母親両方へコミュニケーションを良好にするための情報提供や啓発の継続が必要。⇒2020年度に、NPO法人ファザーリング・ジャパン九州、パパスクール城南受講者と一緒に啓発リーフレットを作成し、母子健康手帳交付時に配付開始。・父親同士が継続して交流できる場の検討

取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

1.講座をきっかけに、夫婦間のコミュニケーションを深めたり、実際に家事や育児の協力を行う等の参加者の行動変容につながった。
プレママパパからのアンケート結果では、今後取り組みたい内容として、「夫婦のコミュニケーションを大切にしたい」や「言葉選びに気を付けたい」等があげられており、行動変容が期待できた。参加者に受講前後に行ったアンケート結果では、受講前後の行動変化として、「妻の話をよく聞くようになった」「家事や育児をするようになった」の割合が高くなっていた。
2.父親同士の交流やNPO法人ファザーリング・ジャパン九州の講話を通して、父親としての喜びや役割を再認識する機会となった。
父親同士の交流会のアンケート結果では、「日頃他の父親と話す機会がなかったので交流できてよかった」、「それぞれ違った悩みをかかえていることや、子育てに対する考え方を直接聞けて参考になった」との意見が多く、参加した父親同士で気持ちの共有や情報交換ができ、育児をすることへ前向きになるきっかけになっていた。講座後に参加者が運営するLINEグループが開始されており、父親が積極的に情報や交流の場を求める様子がみられた。

父親支援の試行的プログラムの取り組み調査報告

調査プログラム一覧

No.	自治体名	プログラム名
1	東京都世田谷区	赤ちゃんの誕生を控えた父親へのリーフレットを用いたオンライン父親講座の開催
2	東京都武蔵野市	妊娠期に保健センターと地域子育て支援拠点が協働して行う父親支援プログラム
3	神奈川県横浜市	横浜市アウトソーシングによる父親育児支援事業及びパパライフサポート
4	京都府京都市南区	京都市南区 吉祥院児童館における父親支援
5	京都府京都市西京区	京都市西京区役所保健福祉センター　子どもはぐくみ室における父親支援
6	京都府向日市	NPO法人子育て支援ねこばす　子育てひろばにおける父親支援
7	三重県四日市市	四日市市における父親の子育てマイスター事業について
8	兵庫県芦屋市	兵庫県芦屋市 男女共同参画推進課における父親支援
9	大分県	大分県パパのコミュニティづくり推進事業

4-1.父親支援の試行的プログラム　東京都世田谷区

赤ちゃんの誕生を控えた父親へのリーフレットを用いたオンライン父親講座の開催

世田谷区の**「オンライン父親講座」**は、初めて子どもを迎える父親を対象にしたzoomによるリアルタイムのオンライン講座である。**地域での子育て支援を担う保健師さんや助産師さんなどが簡便に実施できるように、4ページ構成の心理教育リーフレットを作成した。**

講座の目的は、大きくは父親の育児への自信を高めることであるが、具体的には以下の通りである。

① 生後3ヶ月までの赤ちゃんの反応がわかりにくい時期の子育てに父親として主体的に取り組めるようになること
② 父親に子どもの安定したアタッチメント形成につながるようなかかわりを意識していただくこと
③ 父親が自身のメンタルヘルス不調に気づき対処できるようになること
④ 父親が親になったことによる自分自身の生活全体の変化をよく理解し、それに対処できるようになること
⑤ 父親が母親とコミュニケーションをとりながら良好なパートナーシップを築けるようになること
⑥ 開かれた家族で地域と繋がりながら子育てできるようになること

父親としての人生の良いスタートを切れるよう、実施時期は赤ちゃんの誕生直前の妊娠期36週以降とし、仕事をしている父親が参加しやすいように、開始時間は夜8時からとした。

オンライン父親講座参加者の満足度は総じて高く、受講による効果を検証すると、**受講により育児に対する自己効力感が高まり、赤ちゃんの生後２か月時の育児行動が促された**ことがわかった。

〇取り組み開始年：2022（令和4）年度

〇実施メンバー、職種：

立花良之（国立成育医療研究センター　精神科医）

松田妙子（全国ひろば全協理事）

水本深喜（松蔭大学／国立成育医療研究センター公認心理士）

〇プログラム実施の背景：

女性の社会進出が進み、核家族化が進み家事や育児に対する祖父母や近隣からの支援が減少するとともに、男性の家事・育児への関与の重要性は高まってきている。一方、母親のみならず父親にも産後うつが生じ得ることが知られてきており、父親自身のメンタルヘルス低下を予防することも重要である。社会的期待に応じ、家事育児負担に疲弊するのではなく、自身のメンタルヘルスをケアする0ことも考えながら、父親として主体的に育児に関わることを促す心理教育的アプローチが必要である。そこで、妊娠期36週以降の初めて子どもを持つ父親に対しリーフレットを用いた父親支援講座をオンラインで行い、効果を検証した。

〇オンライン父親講座の概要

オンライン父親講座はzoomで40分程度，平日・休日夜８時に精神科医，全国ひろば全協理事，公認心理士が行った。

〇オンライン父親講座で使用したリーフレット「新米パパのためのスタートガイド」について

リーフレットは、以下の４ページ構成である（図１）。

P1：パパの育児効果！

P2：よく観察してみよう／あなたの赤ちゃんに教えてもらおう

P3：あなたは大丈夫？子育てパパのメンタルヘルスチェック

変化を乗り越えるために／赤ちゃんの誕生による「役割」の変化

P4：ひとりじゃない！子育てパパの仲間・サポーターとつながろう

4-1.父親支援の試行的プログラム　東京都世田谷区

赤ちゃんの誕生を控えた父親へのリーフレットを用いたオンライン父親講座の開催

図1　オンライン父親講座で使用したリーフレット「新米パパのためのスタートガイド」

〇広報、周知の方法

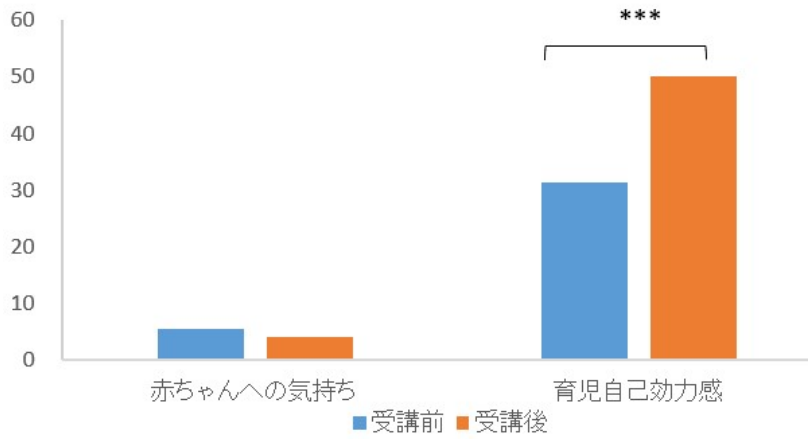
募集チラシを印刷し，子育て支援拠点，区内産院，成育産科受付，成育HP，SNS等で募集した。

〇オンライン父親講座の実施

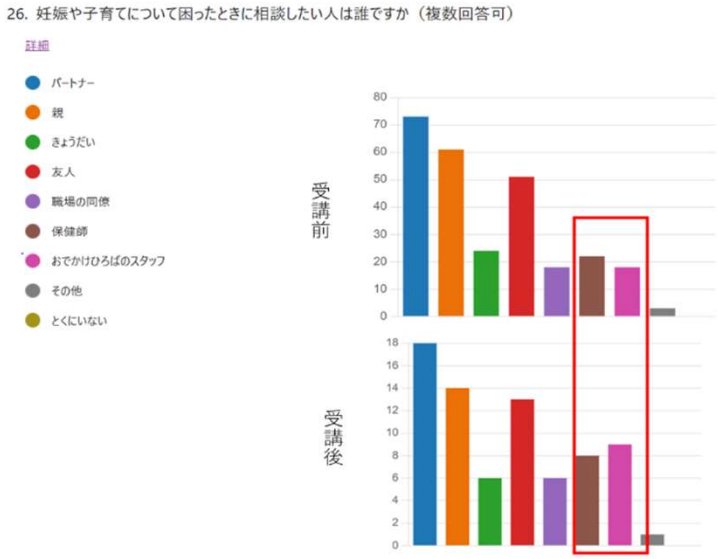
立花、松田、水本で当日に事前打ち合わせ・事後振り返りを行いながら、講座を実施した。父親にとって、オンラインでの夜の実施が参加しやすいと考えた。しかし、オンラインでの講座では実施者・受講者間、受講者同士の間に距離ができる。そのため、受講中にはやむを得ない場合を除きビデオをオンにして参加していただき、講座の導入時に「自分を動物に例えると？」「好きなおでんの具は？」などを伺って互いの距離を縮めるよう工夫した。また、自己紹介時には居住地域を伺い、受講生の居住地域で役立つ子育て資源情報を提供した。講座の途中では、受講者に質問や感想を述べていただくようにし、一方通行の講座にならないようにした。

〇オンライン父親講座受講の効果

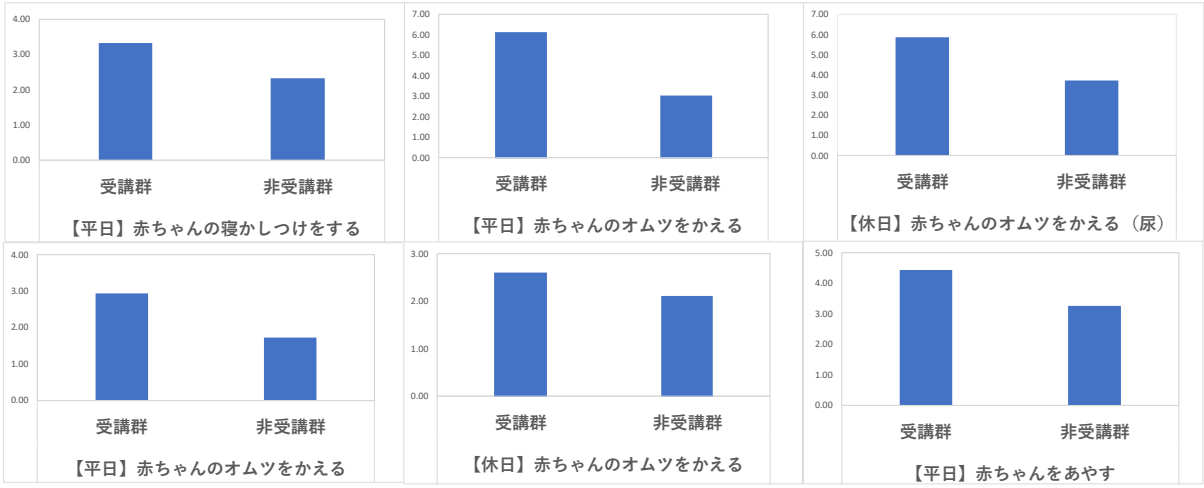
①受講前後での赤ちゃんへの気持ちと育児に対する自己効力感の差：**<u>妊娠中にオンライン父親講座を受講した男性は、受講前と比較して育児に対する自己効力感が有意に高かった</u>**（赤ちゃんへの気持ちは、得点が低いほど赤ちゃんへの愛情を感じていることを示す）。



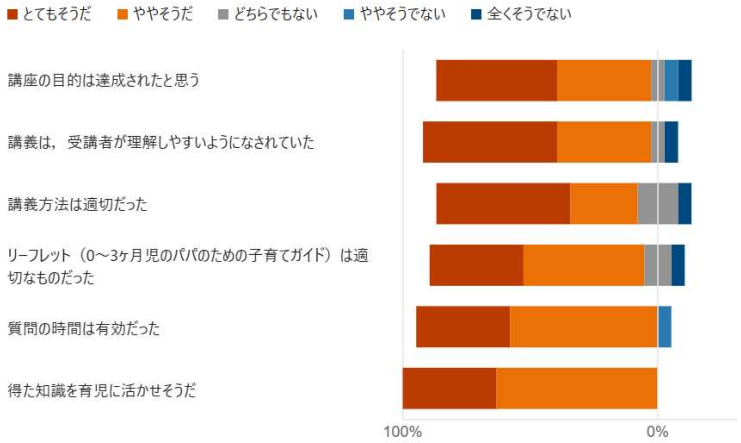
②「妊娠中に困ったことを相談したい人は誰ですか」への
回答：受講後には保健師やお出かけ広場のスタッフを入れる人が増えているようだった。



③生後２か月時の父親の育児行動への効果
オンライン父親講座受講群は、非受講群と比較して、産後２か月時の「赤ちゃんの寝かしつけ【平日】」「赤ちゃんのおむつ替え（尿）【平日・休日】」「赤ちゃんのおむつ替え（便）【平日・休日】」「赤ちゃんをあやす【平日】」の回数が有意に多く、**<u>オンライン父親講座受講により父親の日常的な育児行動が促された</u>**と考えられる。



〇オンライン父親講座受講の効果
①受講後アンケートの結果：受講者の満足度は、総じて高かった。



②【受講後】この講座で得たこと（自由記述）：
講座に参加した父親は，自身のメンタルヘルスケアの必要性を感じ，地域の手を借りながら子育てしていこうとする気持ちが高まっているように思われた。

新生児の能力、泣きのピーク
自身のメンタルケアもしていくべきだなあと感じました
子育てで無理をしすぎず、頼れる人には頼るようにした方がいいこと
産後うつが他人ごとではない事。パートナーとのコミュニケーションの重要性。地域の支援があること。
自分の家の近所に「おでかけ広場」など複数の施設があり、子育てのアドバイスを頂ける環境があること。
パパ視点の講座は役に立ちました
赤ちゃんの発達過程、困った時に相談できる場があるということ
世田谷区の子育てに対する安心感

③【受講後】この講座で習得したことで、すぐに使えそうなこと（自由記述）：講座に参加した父親は、講座で得たことを子育てに活かしていこうと思っていた。

赤ちゃんのサインキャッチ、ママとの役割期待のズレをチェック
あやす際のボール遊びは参考になりました
育児に関する各施設の場所
上記おでかけ広場で情報収集をすること。また、相談できる外部の人（子育てコーディネーター）を見つけること。
パパ友の輪をつくること
出産後のおでかけ広場の活用
パートナーとの役割分担の擦り合わせ

④【生後二か月】オンライン父親講座で最も役に立ったこと（自由記述）：講座に参加した父親は、講座で得たことを実際の育児や自分のメンタルヘルスケアに活かしていた

赤ちゃんとのコミュニケーションの取り方
自身のストレスを溜めないよう心がけること
メンタルケアの必要性
男性の産後うつについて
子育てコミュニティがあることを知ることができた
困った時の相談先を教えてもらったこと

〇最後に：父親の育児に対する自己効力感を高め、実際の育児行動を促すオンライン父親講座を実施した。
今後は全国に均てん化していく。

〇東京都世田谷区のプロフィール（2022年、住民基本台帳）

人口／915,439人（2023年1月１日現在）

出生数／6,326人（2022年）

高齢化率（65歳以上）／20.4%（2022年）

年少化率（15歳未満）／11.7%（2022年）

4-2.父親支援の試行的プログラム　東京都武蔵野市

妊娠期に保健センターと地域子育て支援拠点が協働して行う父親支援プログラム

本プログラムは、武蔵野市で従来実施されてきた両親学級「こうのとり学級」に父親支援の要素を加えたものである。本プログラムの大きな特徴は、2日構成で、1日目には保健センターで心理教育および地域情報提供を行い、2日目には実際に地域子育て支援拠点（ひろば）に出向いてもらい父親同士の交流を図ることである。本プログラムの目的は、母親とのパートナーシップのもと、地域の中で主体的に子育てしていくイメージを父親に持っていただくことであるが、具体的には以下の通りである。

① 父親が夫婦でのパートナーシップについて理解し、良好な夫婦間コミュニケーションをとれるようになる
② 父親に子どもの基本的信頼感を育むような子育てを意識していただく
③ 父親が身近な子育て支援の場としてのひろばや近隣とのつながりを妊娠期から持ち、地域とつながりながら子育てできるようになる

本プログラムの効果をみると、プログラム受講前と比較して、受講後には育児への自己効力感が高まり、1日目の講座、2日目の講座と受講するごとに、保健師やひろばスタッフを相談できる対象として認識していた。

〇取り組み開始年：2022（令和4）年度

〇実施メンバー、職種：

武蔵野市/健康福祉部健康課母子保健係、子ども家庭部子ども子育て支援課、桜堤児童館、0123吉祥寺、0123はらっぱ、山川玲子（社会福祉法人子どもの虐待防止センター　臨床発達心理士）、立花良之（国立成育医療研究センター　精神科医）、松田妙子（全国ひろば全協理事）、水本深喜（松蔭大学　公認心理士）

〇プログラムの概要

東京都武蔵野市では、妊娠16週から31週の初妊婦とそのパートナーに「こうのとり学級」という両親学級を実施している。母親中心の子育てではなく父親の主体的な子育てへの関わりが望まれる中、育児中の父親の孤立を防ぎ、子育ての早いタイミングから母親とのパートナーシップのもと、地域の中で子育てしていくイメージを父親に持っていただく必要がある。こうしたことから、父親の子育てを促し、父親にも母親とのパートナーシップ、赤ちゃんとの絆の形成や地域とのつながりを意識しながらの子育てを促進するために、今年度、「こうのとり学級」に父親支援の要素を加えた「父親支援プログラム」を実施しその効果を検証した。この「父親支援プログラム」は保健センターで行う１日目とひろばで行う２日目の２日制である。内容は、以下の通りである。

①１日目：ようこそ！子育てチームむさしのへ（保健センターにて）

1日目には、保健センター保健師と子育て支援拠点スタッフが合同で父親支援を行う。保健師は、父親および母親に対し、夫婦パートナーシップや子どもとの関係性を育む関わりを促し、父親自身も子育ての担い手であり子育てをサポートされる対象であることを知ることができるような心理教育を行う。子育て支援拠点スタッフは、身近な子育て支援の場所としてのひろばの存在を知らせ、父親がひろばに子どもを連れて行くのは自然なことであることを知っていただくようなプログラムを実施する。

１日目のプログラムの流れは以下の通りである（図１）。

・心構え編（保健師による講義）：子どもとの関係性を育てる関わりを促す心理教育（図2）

・ひろば編（ひろばスタッフによる「親子お出かけプランを立ててみよう」）：動画を用いたひろば紹介とワーク（休日の親子おでかけプランをたててみよう）（図3）

・実習編（保健師による従来の両親学級）：沐浴・抱っこ実習

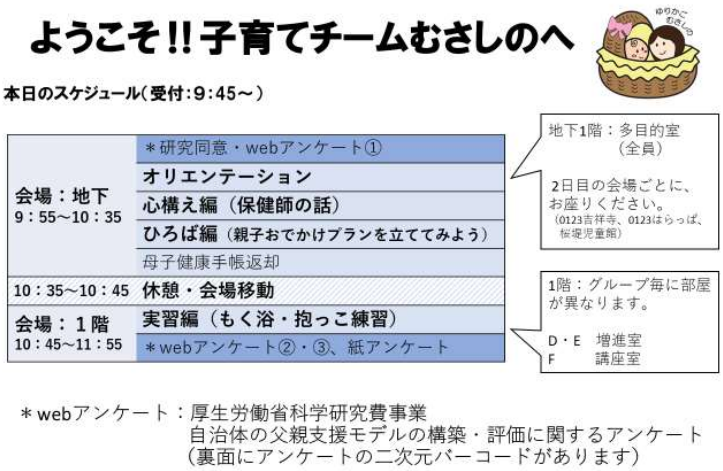


図1　プログラム1日目のスケジュール

4-2.父親支援の試行的プログラム　東京都武蔵野市

妊娠期に保健センターと地域子育て支援拠点が協働して行う父親支援プログラム

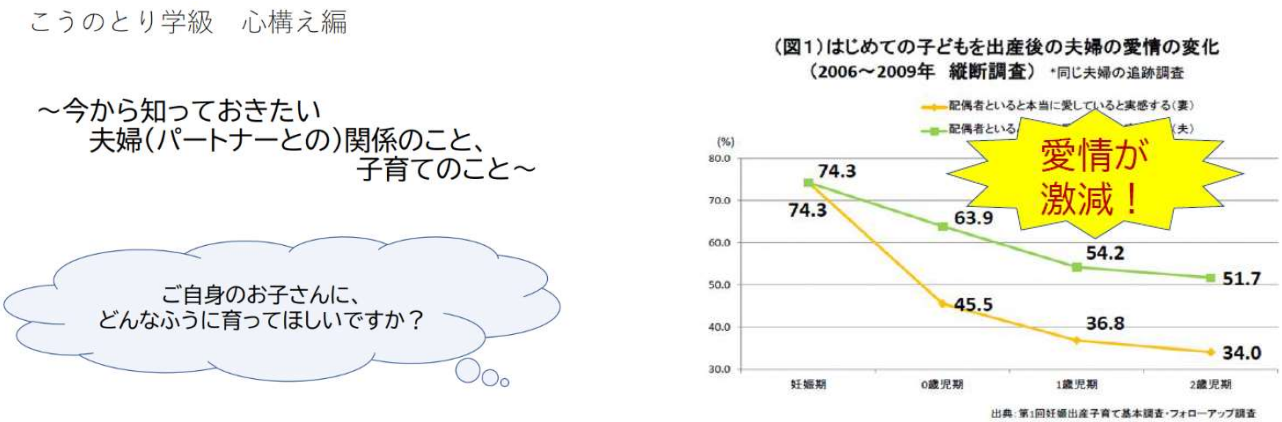


図２　父親支援プログラム「心構え編」（1日目）：で用いた保健師による心理教育のスライドの一部：
父親に母親や子どもとの関係性づくりについて考えていただく内容になっている。

図３　父親支援プログラム「ひろば編」（1日目）で用いたワークシート：
子育てひろば、公園、おむつ替えスペース、授乳室などを認識し、地域での子育てのイメージをつかんでいただく内容になっている。

②２日目：ひろばプログラム：

実際に父親・母親にひろばに出向いてもらい、拠点スタッフがひろばを案内し、近隣の父親・母親同士が交流を持つ。このプログラムの主な目的は、父親・母親が妊娠期よりひろばへ足を運ぶことで、産後早期からひろばへ来所し地域支援につながることができるようになることである。そして、近所に住むプレママ・プレパパ同士交流を持つことで、地域での仲間作りを促すことである。

〇広報、周知の方法

武蔵野市報で告知し、こうのとり学級（両親学級）応募時に参加登録できるようにした。

4-2.父親支援の試行的プログラム　東京都武蔵野市

妊娠期に保健センターと地域子育て支援拠点が協働して行う父親支援プログラム

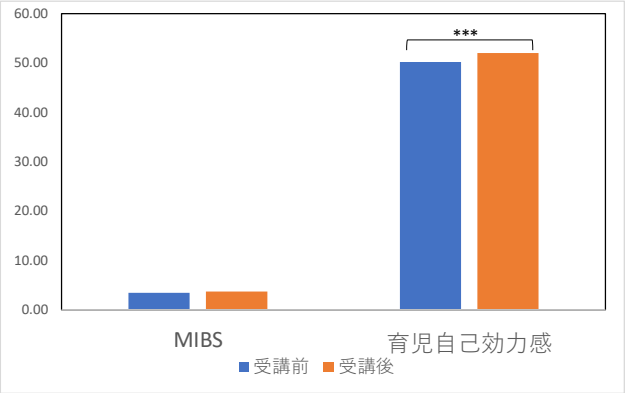
〇工夫したこと

このプログラムの大きな特徴は、両親学級を保健センターと子育てひろばでの２日制にしたことである。１日目にはこれまでの両親学級のような育児手技や赤ちゃんの発達理解のみではなく、赤ちゃんとの絆づくりを促す心理教育を実施し、そして地域子育て支援拠点スタッフがひろばを紹介した。心理教育にはパワーポイントのスライドを用いた。ひろばプログラムでのワーク「休日の親子おでかけプランをたててみよう」では、夫婦でのワークの後に近隣地域に住む人たちがグループになってワークの結果を共有したことで２日目のひろばプログラムの足掛かりを作った。

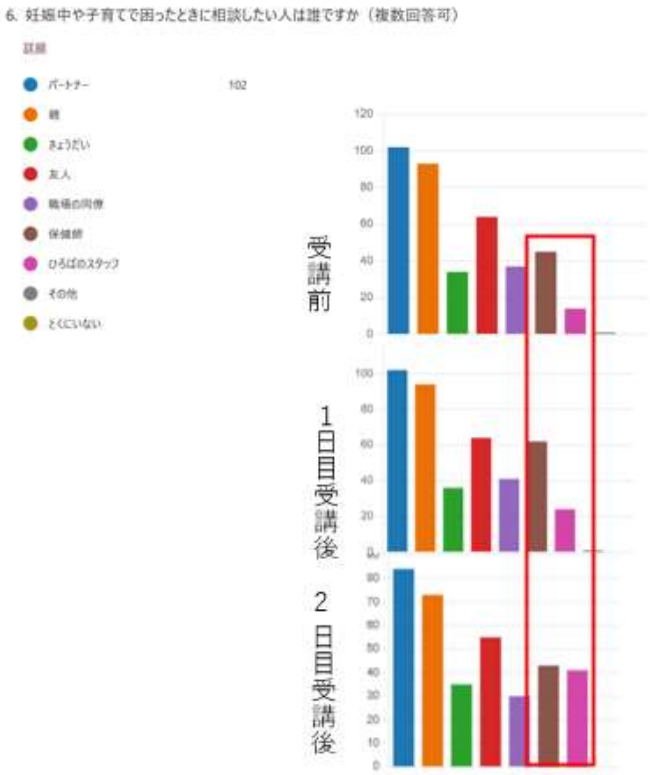
２日目には実際に自宅に近い広場に出向いてもらい、ひろばで妊娠期の父親・母親同士が交流する場を設けた。ひろば案内後、父親・母親別々にグループに分かれて話し合っていただく時間を設けた。父親同士の会話が弾むよう、「３番目に話したい事」をテーマに話していただいた。こうすることで、面識のない父親同士にも会話が生まれ、地域と繋がりにくい父親も、産後に地域子育て支援拠点を訪れるハードルが低くなり、近隣の親との面識を持つことで子育て期に親同士が交流する礎を築くことができたと考えられる。

〇父親支援プログラムの効果

①受講前後での赤ちゃんへの気持ち（MIBS）と育児に対する自己効力感の差：父親支援プログラム**を受講した男性は、受講前と比較して育児に対する自己効力感が有意に高かった**（赤ちゃんへの気持ちは、得点が低いほど赤ちゃんへの愛情を感じていることを示す）。



②「妊娠中や子育てで困ったときに相談したい人は誰ですか」に対する参加者の回答（複数回答可）：プログラム受講前と比較して、1日目の講座、2日目の講座と受講する毎に、**保健師やひろばスタッフを相談できる対象としてより認識していた。**



4. 子育てをする上で，「自分の気持ちが大切」ということが理解できましたか

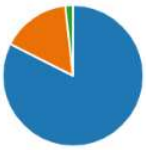
詳細　インサイト

よくわかった	150
すこしわかった	20
あまりわからなかった	1
全くわからなかった	0

7. 開かれた家族が健康度の高い家族になり得ることを理解できましたか

詳細　インサイト

よくわかった	141
すこしわかった	27
あまりわからなかった	3
全くわからなかった	0



5. 肯定的なことばかけが有効だと言うことが理解できましたか

詳細

よくわかった	158
すこしわかった	13
あまりわからなかった	0
全くわからなかった	0

8. 今日の話は，産後に役立ちそうですか

詳細　インサイト

とても役立ちそう	148
すこし役立ちそう	22
あまり役立ちそうにない	1
全く役立ちそうにない	0

6. 子どもへの関わりについては，不快を快にする手助けの繰り返しがしつけだということを理解できましたか

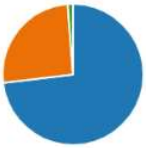
詳細　インサイト

よくわかった	150
すこしわかった	20
あまりわからなかった	1
全くわからなかった	0

9. 妊娠中や子育てで困ったときにはひろばや健康課（保健センター）に相談したいと思いましたか

詳細　インサイト

とても思った	125
すこし思った	44
あまり思わなかった	2
全く思わなかった	0

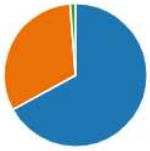


②第2日目：参加者は、ひろばをより身近なサポート源と感じるようになっていた。

4. またひろばに来ようと思いましたか

詳細　インサイト

とても思った	57
すこし思った	27
あまり思わなかった	1
全く思わなかった	0



5. 話すこと，聴くことの体験は，家庭でも実践できそうですか？

詳細　インサイト

できそう	54
まあできそう	31
あまりできそうにない	0
できそうにない	0

6. 困ったときにはひろばや健康課（保健センター）に相談したいと思いましたか

詳細　インサイト

とても思った	51
すこし思った	33
あまり思わなかった	1
全く思わなかった	0

〇東京都武蔵野市のプロフィール（2020年）

人口／148、139人（2023年1月１日現在、住民基本台帳）

出生数／1、118人（2021年、住民基本台帳）

高齢化率（65歳以上）22.29%（2020年、住民基本台帳）

年少化率（15歳未満）11.92%（2020年、住民基本台帳）

4-3.父親支援の試行的プログラム　神奈川県横浜市

横浜市アウトソーシングによる父親育児支援事業及びパパライフサポート

【横浜市アウトソーシングによる父親育児支援事業及びパパライフサポート】

住民が立ち上げた父親育児支援事業の採用:男女共同参画を基盤とした父親が育児をするための環境整備を含めた育児支援事業

１，横浜市におけるアウトソーシングを用いた父親育児支援事業

〇横浜市プロフィール(2021)　人口総数 3,773.982人
対前月比 24,133人　人口千あたり3.4
年少人口率11.9
高齢化率　24.7

〇開始時期：2010年

〇担当課　：横浜市こども青少年局こども福祉保健部地域子育て支援課

〇年間予算：470万円程度(2021年度情報)

〇広報・周知方法：施設がポスターやちらしを配布し施設利用者に周知する。

〇実施担当者：NPO法人全日本育児普及協会が委託。

地域で子育て中のパパが講習を受け認定講師として講座を受け持つ。

〇プログラムについて
地域における父親育児支援講座
パパたちの子育てを応援するため、地域子育て支援拠点や地域ケアプラザ、親と子のつどいのひろばなど地域の身近な施設で父親育児支援講座を開催している。

https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kosodateshien/titioyaikujisien.html

〇講座内容
主に土日祝日の午前中に開催。90分/回講座の内容は初めてのパパ向け、体遊び、幼児育児中の父親向けの育児に関連したテーマでの講義、講師による絵本読み聞かせ、小グループに分かれてテーマについて話し合いの時間を持ち、父親同士の交流を深める。講座は100回/年程度。プログラムはFJ（ファザーリング・ジャパン）のプログラムを参考にしたもの、オリジナルで参考にしたものを実施。同じ日程で市内の複数の場所で講座を開催する。

表　開催日程（一部のみ記載：同じ日時で別会場でも実施しており年間のべ約100回程度実施。）

月日	行政区	会場名	テーマ
7/23	横浜市都筑区	すくすくサロン	子育て初めの一歩
7/30	横浜市緑区	霧が丘地域ケアプラザ	子育て初めの一歩
7/30	横浜市青葉区	子育て支援拠点	子育て初めの一歩
8/14	横浜市港南区	日限山地域ケアプラザ	パパのサードプレイス
9/11	横浜市南区	別所地域ケアプラザ	子育て初めの一歩
9/24	横浜市金沢区	釜利谷地域ケアプラザ	子育て初めの一歩
10/1	横浜市港南区	上大岡東保育園	仕事との両立
10/16	横浜市西区	商業施設：高島屋	イベント的に実施
11/23	横浜市南区	【広場】さくらザウルス	子育て初めの一歩
12/10	横浜市港南区	上大岡東保育園	仕事との両立
1/22	横浜市磯子区	洋光台地域ケアプラザ	子育て初めの一歩
1/29	横浜市保土ヶ谷	【広場】マムマム	子育て初めの一歩
2/18	横浜市泉区	子育て支援拠点	育休復帰

（講座は基本的に無料。広場によって施設利用料がかかります。注・託児、保育サービスではありません）

NPO法人全日本育児普及協会認定講師であるパパライフサポート代表が横浜市全域の年間講座の設定、講師募集と講師の教育、講座日程と講師スケジュール作成、会場の調整を行う。地域の父親を募集し（３月）、講師の講習を実施して６月から横浜市各地域の施設で父親と子どもが参加する講座を行う。

4-3.父親支援の試行的プログラム　神奈川県横浜市

横浜市アウトソーシングによる父親育児支援事業及びパパライフサポート

〇本事業の課題
・市内でも地域差が大きく、出生数が多い地域はすぐに定員越えとなるが、少ない地域では集客が難しい。
・参加希望者のみが対象となるため、支援が必要であるのに希望しない父親へのアプローチ方法がない。
　また、育児への関心の有無が二極化の傾向にあり、関心のない父親へのアプローチもできない。
・継続参加でないため、父親の仲間づくりや父親グループに発展しにくい。

〇参加者の満足度と参加理由：

・全員非常に満足または満足
・どこからこの講座を知ったか：「妻からの情報」が80%。
・参加の理由：子どもにとってよりよい親になりたい
　育児の方法をより知りたかったから
　仕事と両立の方法を知りたい自分の意志というよりは妻に勧められた
　世の中や自分の周りの父親が育児をしているから
　役立つ情報が得られるかと思って
　立派な大人になってほしいから　　参加者アンケートより（11月23日実施の講座）

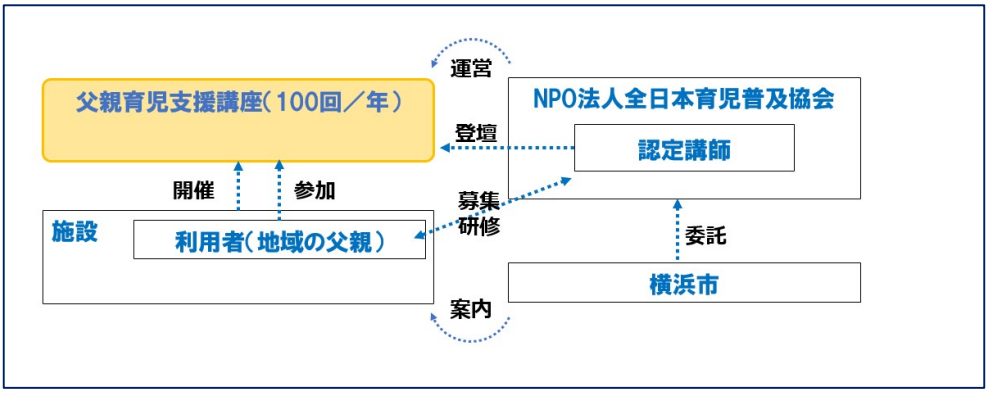
〇認定講師（28名）へのアンケートより（2022年12月～2023年1月実施）
①認定講師になった動機
・講師からの誘い
・経験を活かしたい
・父親同士の交流がしたい

②認定講師になってよかったこと
・育児を通した人間関係の広がり
・地域に根付く
・気持ちの共有：語り合える
「育児って幸せだなぁと改めて思った、とか、肩の力が抜けました、などの意見をもらうとやってよかったと感じます。
　あとは、単純にいろいろな人と出会って語り合うのが楽しいです。」

・自己の成長
「人前で話す事が苦手だったんですが、絵本の読み聞かせが好きでよく家で読んでた事もあり、講座でたくさんの絵本を紹介してパパやお子さんや施設の方たちに好評だった事がパパとしての自信に繋がりました。」
「他の父親たちの話を聞いて、自分自身の子育ての在り方を見直すきっかけになった。また、自分の子育てが落ち着いた後も、新しい父親たちの様子を見て新鮮な気持ち（初心？）になれる。」

③苦労していること
・日本のジェンダーギャップがいまだ根強いこと
・ディスカッションが盛り上がらない
・他の人がどのように実施しているかわからない
・その年ごとの状況の変化で、講和の伝え方が変化させなければいけない。
・子どもを飽きさせずにパパへのメッセージを充実させるバランスが難しい
・特になし

図　横浜市父親育児支援事業運営の概要



２，パパライフサポートが関わる子育て世代向けイベント（HPより引用）

①9月2日　よなよなオンライントーク
日時：9/2(金) 19:30-21:00　実施形態：オンライン（ZOOM）参加費：無料
テーマ：子育て生活って？
時代に応じて、ママとパパが一緒に行う風潮になりつつある子育て。しかし、まだまだジェンダー差に違和感を感じる瞬間も。普段暗黙の了解として捉えられている違和感を話し合いませんか？子育て中の方にも学生さんにも、双方の考え方を共有していただけるワークショップです。

【”ジェンダー平等”ってそういうこと？】ワークショップ「”ジェンダー平等”ってそういうこと？」は、第5次横浜市男女共同参画行動計スタートの年に開催され、今年で2年目。今年度のオンライン企画は「よなよなオンライントーク」。学生×子育て世代×社会人のそれぞれの立場で、ゲストの話に耳を傾けながらお互いのジェンダー差のあるあるや経験を語り合う会です。

ナビゲーター：池田浩久氏（パパライフサポート）：子育て真っ最中の４児の父
主催：横浜市政策局男女共同参画推進課・一般社団法人ラシク０４５・NPO法人アクションポート横浜

※第５次横浜市男女共同参画行動計画
https://www.city.yokohama.lg.jp/cityinfo/seisaku/torikumi/danjo/keikaku/kodokeikaku/dai5jikeikakusakutei.html
概要：第５次行動計画では、新たに「基本姿勢」を掲げ、目指すべき社会の達成状況を測るための数値目標として、計画全体に対して「４つの成果指標」を設定しました。また、10 の施策の中で、「市役所の取組」及び「多様な性のあり方への支援と理解の促進」を新たに打ち出しています。成果指標 ○管理職に占める女性の割合 ○**男性の育児休業・休暇取得率** ○**家庭生活において男女が平等になっていると思う市民の割合** ○市民のＤＶの理解度

②12月5日　神奈川県開成町ワークライフバランス　（HPより引用）
日時：12/5(金) 13:30-15:30　実施形態：対面・オンライン（ZOOM）参加費：無料
テーマ：開成町の家族ノカタチ
講師：池田浩久（パパライフサポート）
主催：開成町

「ワークライフバランスの基本とその社会背景、これからの子育てや介護に関する事を軸にみなさんの多様な働き方・生き方について考えてもらいました。

ワークライフバランスというテーマは広範囲過ぎて、対象がブレそうなところもありますが、実際に集まった方が多世代に及び、既婚者、子がいない、介護やパートナーを亡くした方、子育てしている方、男女問わず様々な方に参加いただきました。 集まって話をしてみると、多様な生き方や生活について、みんなが互いを認め合うという点で知る・考える良い機会になり、好評いただいたようです。」

③「パパレオンズ」の活動　（HPより引用）
子ども達と一緒に様々な体験をやってみよう！自分は苦手だけどこんな体験を子ども達にやらせてみたい！得意な人に教えてもらいたい！というパパと子の体験型サークルです。特に会員制ではなく、集まれるときに集まれるメンバーで『誰かがやりたいことをみんなで一緒にやってみる！』自然体験、科学体験、読書体験、異文化交流、ICT体験、など。
パパレオンズ隊長：池田浩久氏（パパライフサポート）

4-3.父親支援の試行的プログラム　神奈川県横浜市

横浜市アウトソーシングによる父親育児支援事業及びパパライフサポート

図　父子登山のチラシ

図　父子芋ほりのチラシ

図　父子登山の様子

図　収穫体験の様子

3，横浜市父親育児支援事業とパパライフサポート：受講者が作った父親育児支援事業

2011年横浜市がはじめて父親を対象とする育児支援プログラムを実施。この年、育児介護休業法の改正により、池田氏（パパライフサポート代表）が当時所属していた会社で育児休暇取得第１号として育休中に参加。育休取得して育児に専念するほかの父親、ファザーリング・ジャパンとの出会いがあり、NPO法人である全日本育児普及協会と、そのパパ友との協力で現在の講座が立ちあがった。当時は横浜市全体の父親が１か所に集まって講座に参加していた。その後、参加希望者も多いことから、各区ごとの地域の会場で開催することになるが、横浜市は一旦事業中止とした。池田氏とパパ友が市長に事業再開のお願いをして翌年から事業再開し、現在に至る。

横浜市の子ども子育て会議で、父親のワークライフバランス、父親の育児支援実施の方針があり、それに対する父親育児支援事業実施のための入札を経て、池田氏の所属しているNPO法人全日本育児普及協会が応札し参画する。

4，「パパライフサポート」とは

1）代表　池田　浩久氏について

1977年生。北九州出身。横浜市在住。4児の父。第1子から第3子まで一度ずつ育休を取得し産後のパートナーを支えながら家事・育児にコミットする。両祖父母が遠方のため、夫婦支え合いながら子育てし、2012年神奈川県内・横浜市を中心に自身の子育て経験を踏まえた『父親育児の楽しさを広める』活動を開始。

横浜市の父親育児支援に2014年から関り、2016年に子育て支援のNPOに参画。また、神奈川県男女共同参画審議会委員を務める。2019年パパライフサポート事業を開始。子育て中の父親だけでなく、パートナーが妊娠期の男性（いわゆるプレパパ）や、学生向け・企業向けに父親の家事育児を広める活動を本格的に行うようになる。父と子どもで一緒に体験活動をするパパサークル『パパレオンズ』を立ち上げる。

2022年NPO法人ファザーリング・ジャパン理事に就任
また、神奈川県・横浜市青少年指導員。小学校のPTA会長、おやじの会会長等多数の団体に所属して地域の子育てに積極的に関わる。　https://papalife-support.amebaownd.com/

5，最後に

全国の保健センターでは、母子保健法を根拠としたさまざまな事業が展開されています。父親への育児支援事業は、近年になってその必要性が認識されはじめ、各自治体では母子保健担当部署、子ども支援課、児童館（ひろば）、保育園など、実施主体が多岐に渡ります。母親への支援と異なり、父親の育児への意識は個人差や地域差も大きく、支援事業は実施に差があることに加えて、広報や集客も分かりにくいのが現状です。

地域差としては、女性が正規の職員として経済活動に参加している割合が高い都市部で、父親育児支援事業の需要が高まっている傾向があります。一方地方では、需要が少ないことで父親の孤立は深刻化しやすく、母親を含めた育児期家庭の孤立を招き、子どもの逆境的小児期体験につながる可能性も高くなるという、都市部とは異なる事情が想定されます。

本事例は、地域の強み（父親の育児を推進させたいと願う地域住民の活動）を活かした先駆的な事業展開であるといえますが。父親へのアウトリーチへの対応ができないことや父親同士の地域におけるネットワーク作りに至らない、といった課題が示されました。地域の育児支援として、母子保健担当部署との情報交換による家庭支援の充実、これまで母親を中心としてきた健診への参加者に父親（養育者）を奨励するなどの伝統的な性役割に捉われない、育児期家庭の多様化に即した変化がなされることで、より効果的な父親への育児支援が可能になると考えられます。

引用：1) 令和3年(2021)中の人口動態　https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/yokohamashi/tokei-chosa/portal/jinko/dotai/nen/r3dotai.html
2) パパライフサポートHP　https://papalife-support.amebaownd.com/

【 京都市南区 吉祥院児童館における父親支援 】

〇令和４年度　父親支援事業名：パパもすくすく　パパすく！（年3回講座）

① 子どもの発達を促すパパの関わり方と遊び方　＊講師：大阪総合保育大学 児童保育学部 乳児保育学科　阿川勇太
② どうすればいい？パパの子育て　＊講師：京パパ堂　保育士　鵜川真悟
③ パパトーク　＊講師：大阪総合保育大学 児童保育学部 乳児保育学科　阿川勇太

〇プログラムの内容

① 父親のみに限定せず、乳幼児の親子、プレパパ、プレママを対象にプログラムを実施した。内容は「子どもの発達とそれぞれの時期における関わり方」、「パパと遊ぼう」であり、60分間の講義と実践であった。

② 第1回と同様に、父親のみに限定せず、乳幼児の親子、プレパパ、プレママを対象にプログラムを実施した。内容は、男性保育士と一緒に、父親がどんなふうに子育てをしていけばいいのかを考えたり、ふれあい遊びをするというもので、60分間の講義と実践であった。

③ 第1回と同様に、父親のみに限定せず、乳幼児の親子、プレパパ、プレママを対象にプログラムを実施した。この日は60分間の座談会形式でパパ同士が子育てにおける悩みをトークテーマに合わせて話し合うという形で進行した。

〇事業のねらい

父親の育児への参画を促進し、その際にサポート役としてではなく、父親も子育ての主役となれるよう、主体性の向上につなげる。また、父親同士のつながりを創出し、父親同士が楽しみながら育児ができるようなきっかけづくりを行う。

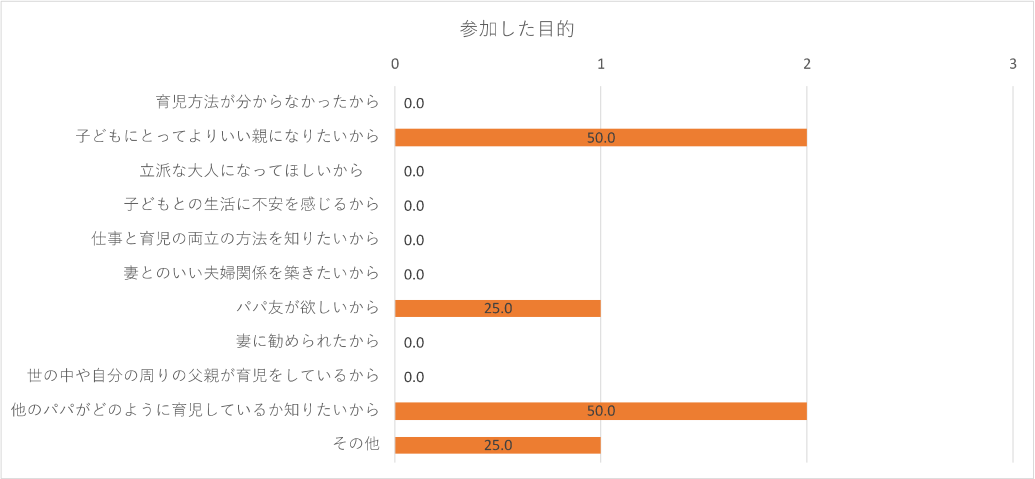
〇プログラム参加者の概要

各講座10組前後の参加があった。全体でプレパパから2歳児の子を持つ父親の参加があった。継続して参加されている父親もおり、第1回目でプレパパとして参加した父親が第3回目に子どもを抱いて参加するなど、産前から産後までを継続して参加していた父親も見られた。約半数の父親が夫婦での参加となったが、当初見込んでいたよりも父親と子どもだけの参加が見られた。30代の父親の参加が最も多く、ほとんどが第１子が０～２歳の父親の参加であった。

〇プログラム参加者へのアンケート結果～第3回講座の参加者のうち調査にご協力いただけた回答～

１，参加した目的は？

最も多かった回答は「子どもにとってよりいい親になりたいから」（50.0%）、「他のパパがどのように育児しているか知りたいから」（50.0%）であり、ついで「パパ友が欲しいから」(25.0%)、その他(25.0%)であった。その他の回答は「ためになるイベントだと思ったから」であった。今回のプログラムに参加した経緯として、最も多かったのが「ママからの情報」であり(75.0%)、チラシを見て参加した父親は1名(25.0%)のみだった。



２，今回のプログラムの満足度は？

大変満足が2名(50.0%)、満足が2名(50.0%)であった。
それぞれの満足度の理由については以下の通りである。

大変満足の理由	父親同士のお話中心だったため。 他のお父さんと話す機会があったため。
満足の理由	いろんな意見を聞けたから。 他のパパの育児への考え方を聞けて勉強になったから。

講座内容が父親同士の座談会であったことから、このような内容に限局しているが、満足度としては他の講座と同様であった。
父親同士の交流をファシリテートするような事業（トークテーマを決めて話をしてもらう）でも、父親の満足感が得られる可能性が明らかとなった。

３，今後実施して欲しいと思うプログラムは？

・パパママペアトークとかも面白そう

今回の講座では父親のみのグループもしくは母親のみのグループにして座談会を実施したのに対し、夫婦で話ができて交流できるような事業の希望があった。また、アンケートには記載されていなかったが、参加者の中には「自分の妻には聞けないことも他の母親になら聞けることもあると思う。女性の意見を素直に聞けると思うので、そういう父親と母親を数人ずつ入れ替えたグループトークの事業があったら参加したい」というような意見もあった。

〇事業担当者へのインタビュー

Ｑ１：なぜ父親支援事業を実施しようと考えましたか？

京都市児童館活動指針の中で、子育て家庭支援活動という章の中で「母親だけでなく父親や他の家族も参加できる機会を設ける。」という記述があります。父親の参加をこれからどう促していこうかと考えていたときに、京都市南区子ども連絡会で父親支援の阿川先生のお話を聞いて、「父親も子育てする主体である」という言葉に共感したのがきっかけです。父親も主人公であるという視点に変化し、父親がつながり、子育てを楽しめるような講座を開催したいと思い企画しました。

Ｑ２：事業を実施するまで及び実施に際して、経験した問題や課題、苦労したことなどはありましたか？

まずは父親向けに講座を行ったことがなかったので、とても不安でした。本当に人が来てくれるのかなと。しかし、蓋を開けてみたら、利用者の母親経由が多かったですが、毎回10組前後は参加してくれました。またこれをきっかけに土曜日に児童館を利用してくれる父親も増えてきました。ただ、対象となる父親が参加できるのは月1回のＷＡＩＷＡＩ広場という時のみで、児童館の他事業の関係で毎週開催できていません。父親のつながりができることを考えると、毎週のように開けていることが大事なのだと思うのですが、そこまでできていないのが現状です。

また、今年度3回やってみて思うのが、次にどうしていくかが重要だなというところです。今は講座はあるけれどその先がないといった状況で、父親のつながりができているかというとそこまでかなと思います。あくまできっかけの部分の整備を今年度は行ったようなところがあるので、今後より父親が繋がれるようなイベントや仕組みを考えていかないといけないなと考えています。今はそこが大きな課題です。

Ｑ３：実施人数や職種は？

館長と職員と担当合わせて5人で事業を行っています。職員が持っている資格については、保育士、小学校教諭、幼稚園教諭、社会福祉士、児童厚生員2級が関わっています。

Ｑ４：予算はどれくらいですか？

チラシ印刷代と講師費用のみで（職員の人件費は別）、ほとんどが児童館にあるものを使用しています。

Ｑ５：プログラムを実施するにあたって工夫している点は何か。

やっぱり継続って大事だなと思います。今年度は、継続して実施したというのが大きな工夫点で、徐々に父親向けの講座をやっているという口コミも広がるようになりました。

また、他の事業では女性講師の方もいますが、やはり父親の講座への参加者の様子を見ていると、男性講師がいいんだろうなと思います。そういう意味では、今年度全て父親である男性講師にお願いしたというところも良い工夫だったと思います。

Ｑ６：講座を今年度やってみて感じた効果はありますか？

父親の様子や意見を話しているところを今まで直に見ることがあまりなかったのですが、父親の子育ての思いや悩みなどを感じることができました。またその中で大きく感じたのは、自分達がこうだろうなと思っている父親の考え方や価値観について、実際の父親の話を聞くとズレてたんだなと感じることができたことです。やはりちゃんと父親の方々と話をしないとわからないことっていっぱいあるなと思いました。

父親が講座をきっかけに少しずつ児童館に来てくれるようになって、父親と子どもだけで利用する人も出てきたので、嬉しく思っています。

［事業担当者からのコメント］

最初は不安が大きかったのですが、やってみると意外と需要があるなと思いました。自分達が見えていない潜在的なニーズがあったんだなと思います。まずは負担のない範囲で少しずつ父親支援を始めてみてはいかがでしょうか。やがて大きな流れになっていったらいいなと思っています。

4-5.父親支援の試行的プログラム　京都府京都市西京区

京都市西京区役所保健福祉センター　子どもはぐくみ室における父親支援

【京都市西京区役所保健福祉センター　子どもはぐくみ室における父親支援】

〇令和４年度　父親支援事業名：

パパの子育て講座～子どもの心の育て方～　＊講師：大阪総合保育大学 児童保育学部 乳児保育学科　阿川勇太

〇プログラムの内容

① 身近な素材を利用して子どもと一緒に楽しめる遊びの紹介

② 乳幼児期の子どもの発達に応じて、どのように関わりながら子どもの心を育てていくのかについての解説

③ 夫婦のパートナーシップ

以上、3つの内容を90分の講座と演習で実施した。

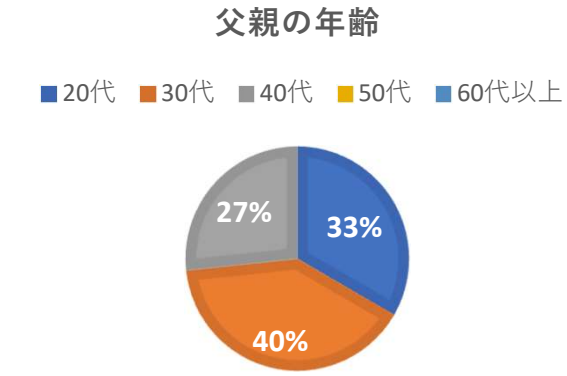
〇事業のねらい

・夫婦のパートナーシップの向上
・両親の育児不安の解消
・子どもの発育発達理解の促進
・児童虐待の未然防止
これらを目指して、父親の育児参加の促進、育児技術の習得、育児の困りごとの解消に着目した事業を実施した。

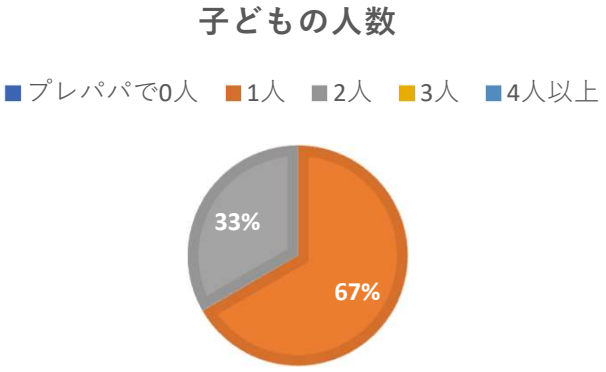
〇プログラム参加者の概要

プログラムには、15組42人（大人26人・子ども16人）の参加があった。

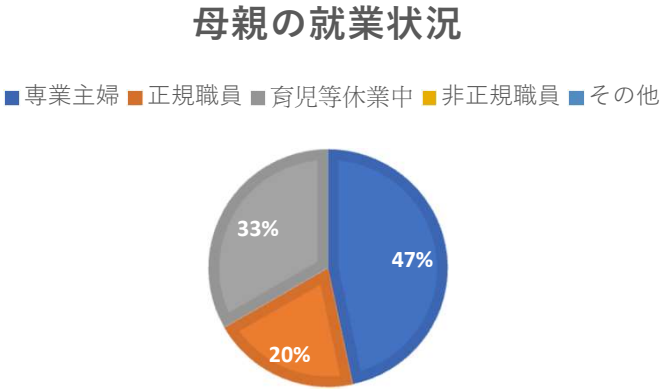
子どもの内訳は、0歳児：２人　1歳児：8人　2歳児：5人　3歳児：1人であった。参加した父親の年齢は20代5名(33.3%)、30代6名(40.0%)、40代4名(26.7%)であった。



子どもの人数は1人が多く(66.7%)、次いで2人(33.3%)であり、はじめての子どもと参加した父親が最も多かったという結果になった。



母親の就業状況は、専業主婦が最も多く7名(46.7%)であり、次いで育児休業中が5名(33.3%)であった。夫婦共働き状態での参加者は3名（20.0%）であった。

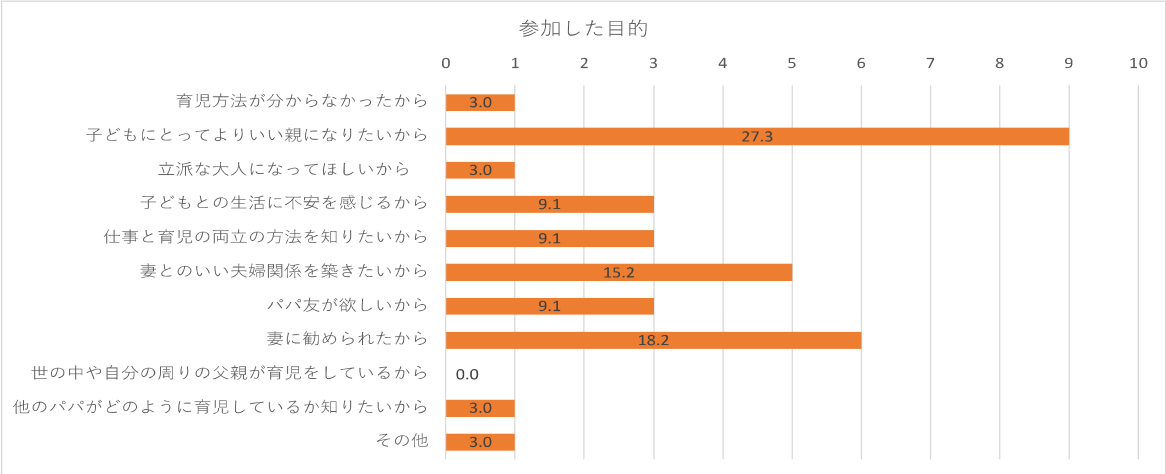


〇プログラム参加者へのアンケート結果

１，参加した目的は？

最も多かった回答は
「子どもにとってよりいい親になりたいから」（27.3%）であり、次いで「妻に勧められたから」(25.0%)が多かった。
3番目には「妻とのいい夫婦関係を築きたいから」(15.2%)が多くなっており、講座内容も影響している可能性はあるが、他の自治体でのプログラム参加者よりも少し高い割合であった

その他の回答としては「休日のお出かけ先として」があった。
今回のプログラムに参加した経緯として、最も多かったのが「ママからの情報」(80.0%)であり、チラシを見て参加した父親が2名(13.3%)、市のホームページを見て参加した父親が1名(6.7%)のみだった。妻から講座の情報を得て参加した父親も、何らかの目的を持って参加していることがわかった。



2，今回のプログラムの満足度は？

大変満足が6名(42.9%)、満足が7名(50.0%)、普通が1名(7.1%)であった。
それぞれの満足度の理由については以下の通りである。　＊1名回答なし

大変満足の理由	・言葉かけや関わり方を楽しく学ぶことができた。特にサッカーの例など印象的な事例が面白かった。 ・妻が保育士で無意識的に育児方針を任せていたところがあった。でも今回色々学んだことで、自分ももっと知識をつけながら一緒に子育てしてみたいと思ったので、そういうきっかけとなったとても良い講座だった。 ・講座の内容がとてもよかったのと合わせて、他のパパが子どもとどのように関わっているのかを実際に見れたのがとてもよかった。父親の子育ては閉ざされていると思う。 ・子どもとの遊びやためになる話も聞けたから。 ・1歳～3歳の時にどのようなことに注目して育てれば良いのかという解説が、とてもわかりやすかった。 ・子どもとの遊びをはじめに行って、その後に講座をするという流れはとても良かったです。講座の内容もとても良かったです。
満足の理由	・子育てに関する話が参考になりました。 ・簡単な遊びや、子育ての考え方が知れてよかった。 ・子育てや家事を任せ気味になっていたので、夫婦での話し合いが重要だと学べて実践しようと思えたから。 ・普段大事なんじゃないかなと曖昧に思っていることを、文字にしてもらえて理解が深まった。 ・いろいろな遊びを知れたし、講座の内容がとても身になるものだった。 ・知らないことを知れた。
普通の理由	・子どもとの遊びに関する体験の部分が、子どもが大きくなっており一緒にできなかったため。年齢別に分けて講座をしてほしかった。座学はためになった。

遊び方や関わり方についての講座部分について満足であったというような記述が多く見られた。

また、夫婦での話し合いに関する重要性を理解し、実践に移そうとしている記述も見られた。

子どもの遊び講座の内容が０～２歳児あたりの内容であったため、それよりり大きいお子様と父親にとっては一緒にできなかったという記述が見られたため、今後の講座内容の検討に活かしたい。

3，プログラムの中で良かった点やさらに改善すると良くなると思った点は？

・すぐに活かせる内容が多くてよかった。
・抱っこしながらの遊びの実践が楽しかったです。パパの運動不足の解消にもなった。
・遊びの時間をもう少し増やしてほしい。他の家族との触れ合いがあっても良いかと（コロナ禍は難しいが）
・セミナーの構成として遊び⇨講座⇨遊びだといいのではないかなと思った。
・パパとの遊びの部分の動画をデータで欲しかった。参加者のみにYoutube限定公開をしても良いかも。
・わかりやすくてよかったと思います。
・子どもと自由に遊びながらセミナーを聞けるという今回のスタイルは非常に良かった。

プログラムでよかった点では、講座の内容や流れ、環境などに関する記述が見られた。

具体的な講座の構成に対する改善の提案もあり、今後の講座に活かしていきたい。

〇事業担当者へのインタビュー

Q１：なぜこの父親支援事業を実施しようと考えましたか？

京都市の中でも西京区は年少人口が一番多く、また共働きの世帯も多くなっています。そのためか、母子手帳をとりに来るときや、沐浴などの体験型のプレパパママ事業をしていた時に父親の参加が多かったり、乳幼児健診でも父親だけで来たりと、いろんな事業の中で父親を見かけることが多かったんです。

そのような父親の育児への参加が見られる状況なのですが、児童虐待の通告件数が右肩上がりなので、その中でも多いなという印象があるのが夫婦喧嘩を子どもの目の前でしてしまう、所謂面前D Vの通告も多く、父親が子育てに参加してても夫婦関係というところで何か課題があるのかなということを思っていました。そこで、令和3年度は夫婦のコミュニケーションをテーマにした講座を実施してみたんです。ただ、平日の昼間であったこともあってか思ったよりその講座は申し込みがあまりなく、今年度は焦点を変えて父親と子どもが実際に関わったりする実践を交えた講座をしてみようということになりました。休日という設定もあってなかなかいい成果があったかなと思います。

虐待予防の支援していても、困難なケースに対応しているときにお父さんの存在が出てこないんです。気がついたらお母さんとばかりお話ししていることが多くて。夫婦で向き合ってもらえたらなと思うんですが。もちろん相当拗れたら専門機関が介入する必要がありますが、そうなる前の予防的な支援という観点から言えば、夫婦のお互いのコミュニケーションやパートナーシップが大事だなと思うので。それで今回の講座にも入れるような形で、事業を実施しました。

Q２：事業を実施するまで及び実施に際して、経験した問題や課題、苦労したことなどはありましたか？

令和３年度の夫婦のコミュニケーション講座は、京都市全域に拡大して募集して10組の参加だったのですが、今回は西京区内に限定して募集したんです。ただこれがうまくいくかどうかわからなかったので、不安でした。かなり周知方法は工夫を凝らして、頑張りました。あとどの日なら父親が集まるのかという部分は前例がなかったので、いつがいいのかなと悩みました。コロナの動向もあったので、それも見つつとなると、考えないといけないことがたくさんあって大変でした。

意外に大変だったのは、場所の確保でした。実施計画に時間がかかってしまったのもあるのですが、関連施設のお部屋が埋まってしまっておりまして、区役所内で確保したのですが、講座に適したお部屋を確保することやアクセスを考えて確保することを考えると、もう少しスケジュール感を持ってできたらよかったなと思っています。

後はやはり、子育て支援業務だけでなく、母子保健業務や地域連携、虐待対応の業務など、他の業務と並行して事業を計画して実施するという部分が大変でした。先ほど計画に時間がかかったというのを言いましたが、他の担当しているイベントとの兼ね合いを見て、いつなら実施ができそうかなどの調整も大変でした。

今回の参加者を見ても、本当は父親自ら自発的に申し込んでもらいたい内容だったんですが、私たちの周知方法が自分達の部署以外になると、管内の保育園や児童館、民生委員さんなどの繋がりがもともとあるところでの周知になるので、父親に直接接触できる機会があまりないところになってしまいまして。もう少し、会社など働いている父親にも直接アプローチできたらよかったかなと思っているのですが、どうやったら届けられたのかなと考えているところです。今後そういった会社などと連携するようなアプローチも検討課題ですね。

Q３：実施人数や職種は？

室長と課長と係長、係員2名の5名で事業を行っています。職種としては、保健師3名、保育士1名、事務職1名が関わっています。

Q４：予算はどれくらいですか？

チラシ印刷代と備品費、講師費用などを合わせて５万円以内に収まっています（職員の人件費は別）。ネットワーク支援事業の予算で組みました。予算もそうですが、上司の理解があり、室長もやってみようと考えてくれたところが大きいと思います。

Q５：プログラムを実施するにあたって工夫している点は何か。

上司の了解を得て土日祝での開催を検討しました。今回日曜日に開催しましたが、結果的に参加者も多くてよかったです。ただ、職員が休日出勤となってしまうので、十分な人員が確保できない部分もあり、その分ゆるキャラグッズの手土産を用意して、少しでも喜んでもらえるようにしました。参加者に「おもちゃも持ってきていいよ」としたのですが、持ってきた人はほとんどいなかったですね。なので、保育士の職員が経験を活かして、参加者の年齢層に合わせて、こんなおもちゃがいいんじゃないかと用意してくれて本当に助かりました。親子が喜びそうなお土産やゆるキャラとの記念撮影会などのアイデアも出しあえて、みんなの協力のもとで良い事業ができたんではないかなと思います。

Q６：今後の自治体での実施可能性はありますか？また他市でも実施可能だと思いますか？

令和5年度に向けて、着々と事業を展開していくための準備を進めております。母子手帳交付時に配布できる西京パパBOOKも現在作成中です。アンケートにも「父親を対象にしたこういうイベントが少ない」という意見もありましたし、「繋がりが欲しい」という意見もあったので、講座と交流会がセットになったような講座ができないかなと考えています。まず今回やってみて、父親たちの要望を知れたのも次年度につなげられるという意味でよかったです。今回やってみて、実践系の講座の方が参加者は多いなと思ったので、そういった講座内容にしようかどうかを現在考えているところです。
他市でも、地域の実情や業務の兼ね合いもあると思うのですが、実施しようと思えばできるのではないかなと思います。

［事業担当者からのコメント］どうしても政令市とかになると、自分達がこういうことやりたいということよりも、国からどんどん「あれしなさい」「これしなさい」と言われる事業をこなすのに一杯一杯になってしまいますよね。でも、事業をするその中でニーズや地域課題をキャッチし外部の力を借りながらでも、何か面白くて新しい取り組みができるなら、それは自分達のスキルアップにもなりますし、市民にとっても良い効果が得られるものかも知れないので、積極的にチャレンジしてもらえたら嬉しいなと思います。

4-6.父親支援の試行的プログラム　京都府向日市

NPO法人子育て支援ねこばす　子育てひろばにおける父親支援

【NPO法人子育て支援ねこばす　子育てひろばにおける父親支援】

〇令和４年度　父親支援事業名：

① パパと一緒に　② 親まなび講座（全4回のうち1回を父親講座としている）

＊講師：大阪総合保育大学 児童保育学部 乳児保育学科　阿川勇太

〇プログラムの内容

① 毎月第３土曜日に、父親が子育てひろばを利用しやすいよう「パパ」という単語をあえて使用して、子育てひろばを解放している。

② 全4回のうち1回を父親講座としている。０～２歳児の父親が利用者としての対象であるが、0歳児の父親の利用が多いため、乳児との遊び方や関わり方などをメインにした講座を行なっている。2022年度は「パパが楽しむ子育て講座」というテーマで、子どもとの関わり方や遊び方、夫婦での子育てについての講座を行なった。

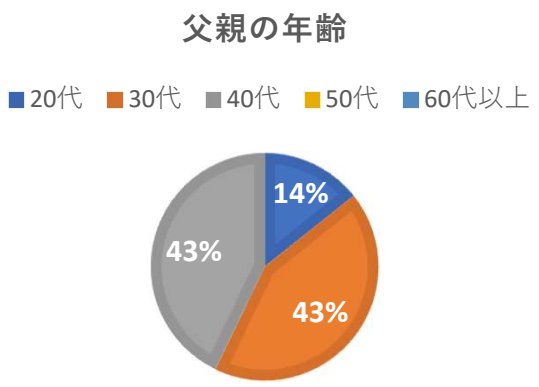
〇事業のねらい

・父親講座や広報などをきっかけに子育てひろばを利用してもらい、父親同士がつながれるようにする。

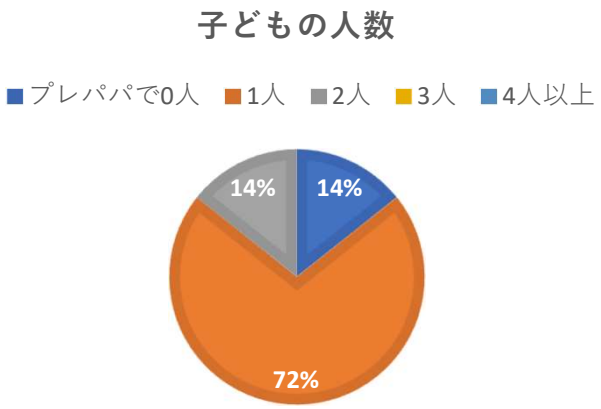
〇プログラム参加者の概要

① 基本的には0歳児の子どもとパパでの利用が多い。1回あたりの利用者は季節的な変動はあるが、３～８組程度の利用がある。夫婦で来ることもあるが、基本はパパと子どもが多い。この事業を始めた時は父親の育休取得者は、利用者としていなかったが、現在はポロポロ育休取得しているパパが来るようになった。そういうパパも平日ではなく、「パパと一緒に」の時に参加することが多い。

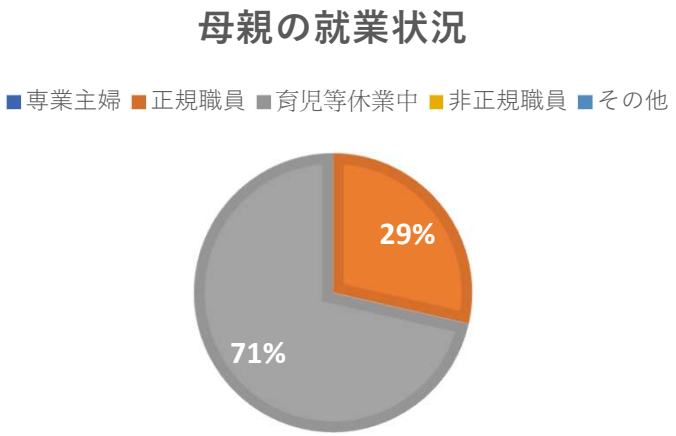
② 参加した父親の年代は20代1名、30代3名、40代3名であった。



子どもの人数は1人が最も多く(71.4%)、はじめての子どもを連れての参加が多かった。



参加していた子どもは０～1歳児の子どもたちであった。1組夫婦での参加があったが、6組は父親のみで子どもを連れてきての参加であった。父親は全員が正社員であり、母親の就業状況は産休・育休等で休暇中の母親が最も多く(71.4%)、次いで母親も正社員で働いている共働き家庭が多かった。母親が専業主婦、非正規社員であるという方の参加はなかった。



今回のプログラムに参加した経緯として、最も多かったのが「ママからの情報」であり(71.4%)、他のプログラムと同様に父親が自ら調べて参加したという参加者は極めて少ない状況であった。

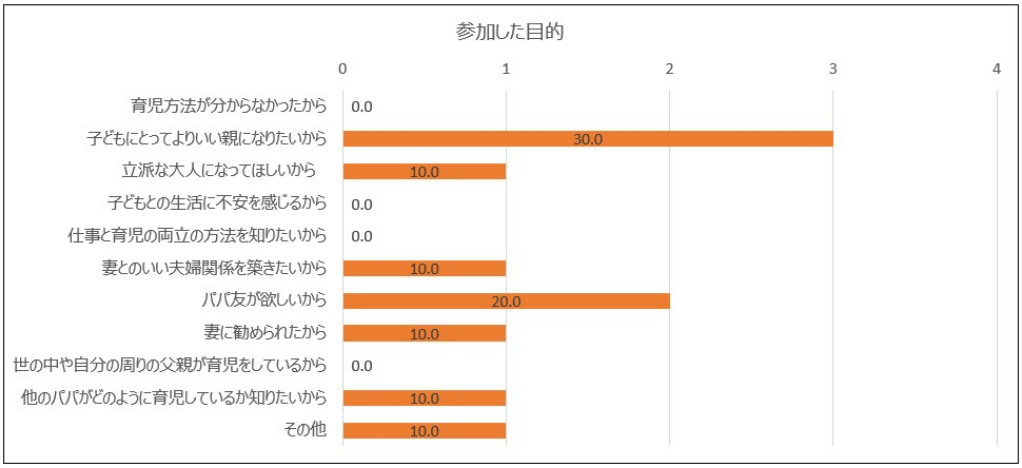
4-6.父親支援の試行的プログラム　京都府向日市

NPO法人子育て支援ねこばす　子育てひろばにおける父親支援

〇プログラム参加者へのアンケート結果

１，参加した目的は？

最も多かった回答は「子どもにとってよりいい親になりたいから」であり（30.0%）、次いで「パパ友が欲しいから」が多かった（20.0%）。「妻に勧められたから」と回答した父親は1名に留まっており(10.0%)、妻から講座の情報を得て参加した父親も、何らかの目的を持って参加していることがわかった。



２，今回のプログラムの満足度は？

大変満足が2名（28.6%）、満足が5名（71.４%）であった。それぞれの満足度の理由については以下の通りである。

大変満足の理由	知らないことや気をつけるべきポイントを知ることが出来ました。 とても参考になりました。
満足の理由	子どもが実際に喜んでいたので、こういうふうに遊べばいいんだということを知れてよかった。 関わり方のヒントがもらえた。 いろいろな遊びを知れたし、子どもが楽しそうだった。 同年代のパパさんの意見が聞けた。 発達をわかりやすく理論的に学べてよかった。

遊び方や理論などを学べてよかったという意見や、実際に子どもと遊びながら演習することで、子どもが喜んでいる姿を見て「こういうふうに遊べばいいんだ」ということを知れたという意見が見られた。

３，プログラムで特によかったと感じた点は？

・夫婦での子育てに関するところは特に勉強になった。
・具体的な遊び方を知れたのと、他の講座と違い男性講師（パパ）が自分たちの目線に近い人だったので、遊び自体もパパにとって一緒に子どもと楽しめるものであったところ。

夫婦でどのように子育てをしていけば良いかについて解説したところや、遊び方を具体的に学べた部分についての記述が見られた。また、講師の選定に関する記述もあり、どういう内容かに合わせて、誰がやるかも重要である可能性が伺えた。

４，プログラムの改善点は？

・子どもとの遊び方や種類について、メモ程度にでもレジュメがあれば嬉しい。面白かったので、メモをしたいが、子どもを抱えながらメモは難しかったので。

遊び講座を実施するにあたり、振り返って家でも実践できるようなレジュメが欲しいという意見があった。

５，今後実施して欲しいと思うプログラムは？

・どの家事をどこまですべきかは、それぞれの家庭で違うとは思いますが、他の家庭ではどの程度のことをしているのか（どんな家事を省いているのか、どの程度時間をかけてしているのか）について、参考になるような話を聞くことができたら、興味があります。

家事をどのようにして省くかやどの程度時間をかけてやるかについてのプログラムを希望する意見があった。父親も家事に参画するようになり、家事をどのように工夫してやればいいのかを知りたいという要望が出てきているのではないかと推察された。お互いにどのように工夫して家事をやっているかについてを話し合えるようなプログラムを今後実践してみても良いかも知れない。

4-6.父親支援の試行的プログラム　京都府向日市

NPO法人子育て支援ねこばす　子育てひろばにおける父親支援

〇事業担当者へのインタビュー

Q１：なぜ父親支援事業を実施しようと考えましたか？

ジェンダーの勉強をしていました。その際に、やはり母親に育児負担が大きくのしかかることが気になっており、「夫婦が対等の立場に」という言葉をよく聞くようになって、父親の育児を推進しようと思ったのが一番最初のきっかけでした。その頃父親が育児に参画することで、どのような効果があるのかも調べたりし、子どもにとってもやはり良い効果があるというものを見て、母親にとっても子どもにとってもいいのだから、やはりやって行こうと思いました。また、それと同時に父親もしんどさや辛さを抱えているということも知り、母親と同じように父親もつながって欲しいなという思いもあったので、父親のつながりを作ることも目的に行って行こうと思いました。

2018年頃から「パパと一緒に」を実施し始め、父親が利用しやすい環境づくりを始めました。また、父親が育児について学ぶ場が必要であるということから、2019年に親学び講座の1回分を父親向けの講座として開催するようになりました。

Q２：事業を実施するまで及び実施に際して、経験した問題や課題、苦労したことなどはありましたか？

事業を実施するまでのところでは、先行事例がなかったので、まずどうすればうまくいくのかがわからなかったです。色々手探りでしたが、まずはパパが来れる環境から整えようということで、「パパと一緒に」をスタートしました。パパも利用できますよという宣伝だけではやはり誰も来ないかなということで、あえてパパの日を作ったという感じです。もちろんママも一緒に来ていい日にしております。そこできっかけづくりをして継続的に来ていただけたらというのもあったのですが、あまり継続的に来てくれるパパはいなかったですね。基本的にママが推してくれないとパパは来なかったです。なので、平日利用しているママがパパを連れてくるという感じでした。それもいいのですが、やはり利用したことのないパパにも来て欲しいというのもあったので、なんとかパパにリーチしようとするのですが、そのきっかけがなかなかなく。結果的にママたちに声をかけるような広報しかできなかったというところが、最初は苦労しました。

2019年は父親講座をして、その受講者をうまく利用に繋げられたらというねらいもありましたが、この時はまず講師の選定に悩みました。これについては同じように父親向けの講座を行なっているところを探し、京都市男女共同参画センターさんの方でやりたいなと思っていたものと同じような講座が開催されていたので、その講師をしていた阿川先生を紹介していただきたいと依頼をしました。そこまでは良かったのですが、次は広報でした。乳幼児健診の場でのチラシの配布やひろば利用者への声かけなど、さまざまな方法で広報をして、10組ほどの参加者がありました。ただ、この広報にかなり労力がかかったので、どうすればもっとスムーズに人を集められるかは今後の課題だなとなりました。また、参加した人は「よかった！」と言ってくれるのですが、父親講座やパパと一緒には、定員一杯まで人が集まったことがないので、もっと父親が集まりやすいイベントや環境を用意することも課題です。

講座の後、受講者が利用するようになればと思ったのですが、それがなかったことも課題でした。父親のつながりを作りたいという思いもあるので、継続した利用につながるようにしたいのですが、2019年や2022年の父親講座受講後だけでなく（2020~2021年はコロナ禍で未開催）、現在までに「パパと一緒に」を利用されたパパたちもリピーターが少なく、継続したパパの利用というのは極めて少なくなっています。今後、継続して利用してもらうためにはどうしたらいいのかを考えていきたいなというのが、今抱えている問題です。

実は最近、パパだけでなくママも継続した利用が減っています。子育てひろばへのニーズが変わってきているのではないかということも感じています。

Q３：予算はどれくらいですか？

「パパと一緒に」は、特に別途費用をかけることがないので、通常の運営予算内で運営しています。日程表に「パパと一緒に」を入れるくらいです。父親講座については、講師料、保育士派遣代、会場費が必要となりますが、大きな予算額ではありません。

Q４：プログラムを実施するにあたって工夫している点は何か。

どちらのプログラムも、パパが参加しやすい土曜日を選んで実施しています。また、父親講座も含めて夫婦でご参加されることも多いので、父親のみの参加の講座をしたい気持ちもあるのですが、家族で参加しやすい内容にした方が、最近はパパの参加も多いので、父親講座でも夫婦で学べるような内容で実施しようとしています。

［事業担当者からのコメント］

どの地域にも、父親が「ちょっと行ってみようかな」と思った時に、気軽に行けるような子育て支援の場所があったらいいなと思います。ただ、経験上パパのみのものはハードルが高いので、まずは家族で参加しやすいイベントをして、こういうところに来てみてもいいかなと思ってもらえるようにする工夫が必要かなと思います。

最近は家族の形も多様化してきているので、支援の形も多様化して、どんな人でも平等に支援が受けられるようになればなと思っています。

4-7.父親支援の試行的プログラム　三重県四日市市

四日市市における父親の子育てマイスター事業について

【四日市市における父親の子育てマイスター事業について】

〇取り組み開始年：2010（平成22）年度

〇スタートの理由：
当時の田中市長のマニフェストにおいて、「父親の子育てマイスターを養成する」としていたのをきっかけに、新規事業として立ち上げた。当時、「子育てマイスター」と称する認定制度は他の自治体にも見られたようだが、父親に限ったものはなく、おそらく全国初の取り組みとしてスタートした。

〇担当部門、協力部門：
当時はまだ「父親の子育て」を所管する課がなかったため、児童福祉課（現・こども未来課）、男女共同参画課、健康づくり課（現・こども保健福祉課）の３課合同企画として立ち上げた。現在も３課合同の体制で進めている。特に、こども保健福祉課は、父親の子育てマイスター養成講座で、妊婦体験講座や子どもの救急講座など母子保健に関わる講座で講師を務め、参加する父親に当市が行う母子保健事業のチラシ等を配付するなど普及を行っている。また、本事業の中心となるこども未来課と協働関係にある市民団体の「パパスマイル四日市」とが企画・運営の中心を担っている。なお、パパスマイル四日市は父親の子育てマイスター養成講座の修了生の有志によるサークルであり、本事業は2016（平成28）年度から正式に市とパパスマイル四日市との協働事業として実施している。

〇年間予算：3,894千円（令和４年度予算）

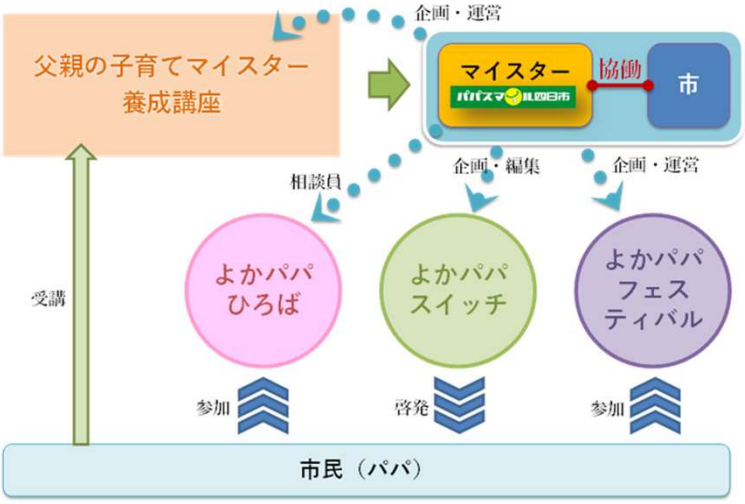
〇職員２名（正職員１名、会計年度任用職員１名）

具体的なプログラムの内容

〇今年度の具体的な概要

父親の子育てマイスター事業の全体像としては、中心となる①父親の子育てマイスター養成講座のほか、②父親の子育て相談（よかパパひろば）、③父親の子育て情報誌（よかパパスイッチ）、④父親の子育て応援イベント（よかパパフェスティバル）の４つからなる（右図参照）。

図　四日市市父親の子育てマイスター事業の全体像

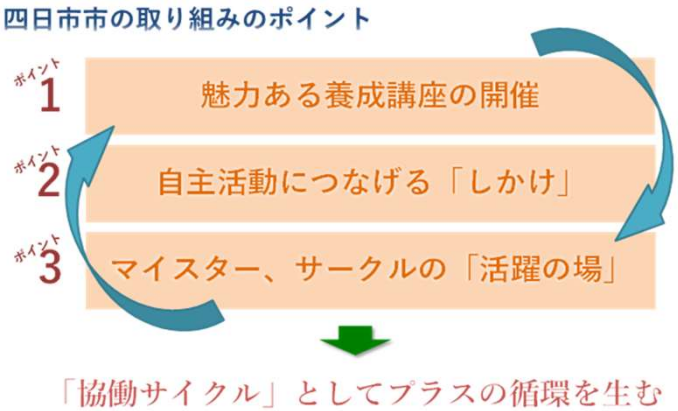


②の「よかパパひろば」は、毎月１回、市の子育て支援施設である「こども子育て交流プラザ」において開催しており、父親の子育てマイスター（以下、「マイスター」という。）のうち「父親の子育て相談員」として登録した人が数名参加し、絵本の読み聞かせをしたり、一般参加者とお話しをしたりして、父親（または母親）に対するピアカウンセリングをしている。

③の「よかパパスイッチ」は、父親向けの情報誌・啓発冊子として、母子健康手帳発給時に合わせてお渡ししている。これまでに３バージョンを発行し、いずれもマイスターに編集協力を要請することで、父親の目線で作製しており、時代とともに変化する父親像や父親のニーズに対応したものとなっている。

④の「よかパパフェスティバル」は、年１回、こども子育て交流プラザなどで開催しており、四日市市の父親の子育てマイスター事業を周知するとともに、父親の子育てを応援し、盛り上げる趣旨で開催している。市及びパパスマイル四日市のみならず、市内の子育て支援団体にも出展を呼びかけ、多彩なブース企画やステージ発表などで親子連れの来場者を楽しませている。

最後に、事業の中心となる①「父親の子育てマイスター養成講座」は、全５回程度の連続講座からなり、原則として全講座を修了することでマイスターとしての認定証を授与される。詳細は次項以下に記載するが、養成講座を通じて、父親一人ひとりのスキルアップを促すのみならず、同期の受講生同士の「つながり」を働きかけ、いわゆる「パパ友」づくりにもつなげている。さらに、前述のような「父親の子育て相談員」や「パパスマイル四日市」といった活動・活躍の場が設けられていることで、意欲のある人が四日市市における「父親の子育て」を盛り上げ、後に続く父親を育てる『好循環』を生み出している（下図参照）。



4-7.父親支援の試行的プログラム　三重県四日市市

四日市市における父親の子育てマイスター事業について

〇実際のプログラム：　2022（令和４）年度の父親の子育てマイスター養成講座のプログラムは下表の通りである。

これまで13期に渡り養成講座を開催しているが、毎年度、初回の基調講演はNPO法人・ファザーリング・ジャパンから講師を招き、「父親の子育て」の大切さや意義、心構えなどを伝えている。過去２年は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、連続講座の受講生のみであったが、今年度は３年ぶりに公開講座として一般参加者も受け入れて開催した。

続く第２回～第５回の講座は、徐々に講座内容を変えたり、組み合わせを変えたりしているが、基本的には父親に持っていてもらいたいスキルや知識を得てもらう内容となっている。2022（令和４）年度は「夫婦のコミュニケーション講座」、「掃除講座」、「ふれあい遊び講座」、「救急（セルフレスキュー）講座」がテーマであったが、過去には「料理講座」、「妊婦体験講座」、「行政の支援制度講座」、「マネー講座」なども開催したことがある。

	日　程	講座内容	講　師	会　場	ママ講座内容
①	7月24日(日) 13:30～16:00	パパの育児が世界を変える！？ ～笑顔が素敵なパパを目指して～	大阪教育大学教育学部 家政教育部門教授 NPO法人 ファザーリング・ジャパン顧問 小崎　恭弘	橋北交流施設 第６会議室	パパ講座と合同
		講師との座談会			ママトーク
②	9月4日(日) 13:30～16:00	夫婦de子育てNEXT ～チームわが家でいこう～	NPO法人 ファザーリング・ジャパン理事 林田　香織	総合会館７階 第１研修室	パパ講座と合同
		講師との座談会			ママトーク
③	10月16日(日) 9:30～12:00	ママも喜ぶ！ パパッと簡単お掃除講座	おそうじ本舗 尾市　政繁	橋北子育て支援センター ホール	アイシング クッキー作り
		グループワーク			
④	11月20日(日) 9:30～12:00	男性保育士直伝！ パパ友みんなで親子ふれあい遊び	よっかいち 男性保育士会	橋北交流施設 第６会議室	パステルアート
		グループワーク			手形アート
⑤	12月4日(日) 9:30～12:00	救急講座 ～こんなときどうしたら?こどもの緊急に備えよう!～	四日市市 こども保健福祉課 母子保健係	総合会館７階 第１研修室	パパ講座と合同
		マイスター認定式			認定式見学

表　父親の子育てマイスター養成講座プログラム

図　基調講演

図　夫婦のコミュニケーション講座

また、各回の講座では、受け身で受講するだけでなく、後半に必ずグループワーク（「パパトーク」と呼んでいる。）の時間を設けている。これは、受講者間でのコミュニケーションを高め、「パパ友」づくりに寄与することを狙いとしている。

図　掃除講座

図　ふれあい遊び講座

図　パパトーク

図　認定式

一方、この講座では全回とも託児付きとなっており、父親のみならず母親の参加も呼びかけている。「夫婦のコミュニケーション講座」のように父親と母親が同じ講座を受講する場合もあるが、「ママ講座」として別内容の講座を設定している回もあり、「アイシングクッキーづくり」や「パステルアート」など、主に「自分の時間づくり」や母親同士のコミュニケーションを主眼としており、2015（平成27）年度の第６期から設定している。

さらに、コロナ禍の期間を除いて毎年度、マイスターとなった人への「フォローアップ講座」も開催している。マイスターとなって以降も高い意識を持ち続けて欲しいとの趣旨で開催しており、今年度は、地域において父親が活動することの意義を伝える講座を開催した。

〇広報、周知の方法

広報としては、市の広報媒体である広報紙、公式ホームページに開催概要を掲載するほか、市ＳＮＳでも発信を行った。さらに、市内子育て支援センター等に加え、市内大型商業施設でもチラシの配布やポスターの掲示を行った。また、前述の「よかパパひろば」、「よかパパフェスティバル」等においてもチラシの配布、事業の紹介を行い、関心のある方にはマイスターから詳細な説明を行うことで、理解を深めてもらうようにした。

四日市市における父親の子育てマイスター事業について

〇参加者の年齢層等

2022（令和４）年度の参加者は計12人で、その年齢層は20歳代1人、30歳代8人、40歳代3人であった。

〇参加者の意見や反応

2022（令和４）年度の受講者へのアンケートによると、回答のあった10人中、講座を通じての変化は「少し変わった」が大半で、講座を通じて意識や行動に変化がもたらされていると言える。具体的には、「もっと家族と関わりたい」、「子育てを楽しむようになった」、「以前より積極的になれた」や「家事をやるようになった」との回答があったほか、「パパ友ができた」という回答もあった。また、講座を友人等に薦めたいかについては、全員が「思う」または「どちらかといえば思う」と回答しており、講座内容への満足感がうかがえる。

表　講座を通じての変化の有無

非常に変わった	０人
少し変わった	８人
あまり変わらなかった	１人
全く変わらなかった	０人
わからない	１人

表　講座を友人等に薦めたいか

思う	４人
どちらかといえば思う	６人
どちらかといえば思わない	０人
思わない	０人

〇プログラムの改善点

毎年度、事業の企画会議においてプログラムの改善を図っている。2022（令和４）年度においては、連続講座を年内に終了し、１～３月の時期にフォローアップ講座と「父親の子育て相談員」の交流会を開催することで、マイスター認定後の活動をスムーズにするための日程的な改善を行った。

また、「よかパパフェスティバル」を６月の父の日に開催するよう日程を移動し、７月からの養成講座の周知を行い、事業の連続性を持たせた。各回の講座においては、「パパトーク」の時間を確保し、「パパ友が作りたい」というニーズに応えるようにした。

〇課題

父親の子育てマイスター事業の課題として、次の３点を挙げる。

①父親の意識・意欲の変化への対応……
参加者である父親の意識・子育てへの意欲は年々変化しており、例えば、料理の経験などは「ふつう」になりつつある。

②マイスターを取り巻く環境の変化……
マイスターは、修了直後には熱い気持ちがあっても、我が子の成長などとともに事業への参加、協力がしづらくなっていく。

③活動はボランタリーでも、「タダ」では継続できない……
事業の協働パートナーであるパパスマイル四日市や父親の子育て相談員の活動はボランティアだが、
無理なく続けられるだけの活動費は必要である。

〇今後の方向性

上記３点の課題に対応し、次のような方向性を持つことが必要であると考えている。

①講座やイベントも父親の意識や意欲の変化に対応していく必要がある。

②協力者側の参加のモチベーションを維持することも重要である。

③市とパパスマイル四日市及び父親の子育て相談員との役割分担に応じた事業費を引き続き確保することが必要である。

前述のとおり、この事業は協働事業として『好循環』を生んでいると認識しており、今後も父親の子育てを応援することで「子育てするなら四日市」と言われるような環境づくりに寄与し、上のような課題に対応しつつ、継続して取り組んでいくことが重要であると考えている。

〇四日市市のプロフィール（2021年）

人口／310,110人（10月１日現在、住民基本台帳）

出生数／2,106人（2020年、三重県人口動態統計）

高齢化率（65歳以上）／26.1%（10月１日現在、住民基本台帳）

年少化率（15歳未満）／12.3%（10月１日現在、住民基本台帳）

4-8.父親支援の試行的プログラム　兵庫県芦屋市

兵庫県芦屋市 男女共同参画推進課における父親支援

【兵庫県芦屋市 男女共同参画推進課における父親支援】

〇令和４年度　父親支援事業名（プログラム名）：

① パパタイム

② 父親支援講座 【両事業とも芦屋市男女共同参画センター講座 女性活躍推進事業】

＊講師：大阪総合保育大学 児童保育学部 乳児保育学科　阿川勇太

〇プログラムの内容

① 偶数月の原則第4週目の土曜日の午前中に、センター内の１室でおもちゃや遊具を用意し、パパたちが子どもを遊ばせながら交流できる機会を提供している。センターの職員も見守りながら、時折会話に入ってパパ同士の会話が展開されるように工夫している。参加にあたって予約は不要で、開催時の入退場も自由となっている。

② 令和３年度、令和4年度ともに父親支援講座として「パパのための初めての育児講座」を開催した。対象は概ね１歳６か月までの子どもをもつ父親とし、母親の同伴参加も可能とした。内容は「赤ちゃんとの遊び方や接し方、「寝かしつけ方」、「男性が家事や育児に参画することの重要性やメリット」、「夫婦のパートナーシップやコミュニケーション」についての90分間の講義であった。

〇事業のねらい

父親同士の交流促進及び情報交換の場の提供。父親講座などをきっかけにパパタイムへ来てもらい、父親同士がつながれるようにする。 また、父親が子どもを連れて家から出られる場を提供することで、母親の休息が取れる時間を確保できればとも考えている。

〇プログラム参加者の概要～令和3年度と令和4年度を比較して～

① 令和３年度はコロナ禍であったこともあり、2回しか開催できなかったが、13組28名の参加があった。令和4年度については４月から継続的に実施しているが、16組35人の利用に留まっている。。

② 令和３年度は6組17名の参加があり、基本的に第１子が１歳６か月までの父親が参加していた。1組以外は母親も同伴して参加していた。令和4年度は3組6名の参加であり、父親と子どものみが参加していた。同じく基本的に第１子が１歳６か月までの父親が参加していた。

〇プログラム参加者へのアンケート結果

令和4年度は、参加者が少なかったため、詳細なアンケート結果は得られず。満足度としては、全員が大変満足もしくは満足と回答していた。具体的に良かった点としては、「遊び方を色々学べた」や、「実際に寝かしつけ方で困っていたので、具体的な方法を教えてもらえたことも良かったし、周りのパパも同じように悩んでいることが知れて良かった」という声が聞かれた。今後実施してほしいプログラムに関しては、同様に遊びが学べるプログラムや具体的に育児に困っていることを解決できるようなプログラムなどを望む声があった。

兵庫県芦屋市 男女共同参画推進課における父親支援

〇事業担当者へのインタビュー

Q１：なぜ父親支援事業を実施しようと考えましたか？

母親は公園などでも情報交換を上手にしながら繋がりをつくったりしていますが、父親はそういう機会も少なくて難しいと感じる方が多いのではないかと思っていました。何か父親も気軽に繋がれるような場所が必要じゃないかなと考えていたところ、市の付属機関である女性活躍推進会議委員が欧州の父親センターの取り組みを紹介してくださって。同じような取り組みをしてみようとなりました。父親の参加を促すという意味では、やはり父親と子どもに限定した場所を設定する方が父親も来やすいのではないかと思い、父親と子どもだけを参加対象とした「パパタイム」という名前の事業をスタートしました。

父親支援講座では母親の参加もOKにしています。こちらでは、初めて父親になった人をメインターゲットにし、スムーズに育児を行えるように、子どもとの遊び方や関わり方、困りやすい育児上の出来事への対処法、夫婦での子育てなどを内容に盛り込んだ形で講座を開催しております。この事業に参加した人が、パパタイムの参加に繋がればとも思っています。

Q２：事業を実施するまで及び実施に際して、経験した問題や課題、苦労したことなどはありましたか？

事業を実施するにあたっては、そもそもニーズがあるのかという部分が不安でした。ただ、父親のつながりを作っていく必要性は感じていたので、やってみようとなりました。特にパパタイムについては、周囲から「父親限定（パパタイムの対象がパパと子どものみ）にニーズはあるの？」、「母親が一緒じゃないと来ないんじゃない？」という声もありました。しかしながら、上司の「やってみないとわからないからやってみようか」という理解のもとで、進めることができました。

しかし、実際にやっていこうとした時にまず苦労したのが、父親への広報の仕方についてです。直接的に父親に広報できたり、チラシを配ったりすることが難しく、結果的に市のホームページなどに掲載したり、母親向け支援講座終了時にチラシを母親に配布したりしていました。それでなんとか少しずつは集まっていますが、効果的に父親を呼ぶことができるような仕組みについては、今後も継続して検討していく必要があります。上手くこれらの事業の魅力を発信していけるようにしたいと思っています。

パパタイムを行う中での課題は、父親同士の交流のきっかけづくりだと思っています。同じ空間で子どもとは遊んでいるのですが、父親同士が積極的に交流や情報交換している場面がみられるのはまだ少ない状況です。このきっかけ作りをどのようにしていけば良いのかを考えるのが、今後の課題で、今はファシリテーターを導入したり、関係機関の専門職にお手伝いいただくことなどを通して交流したりできるようなことを検討しています。

Q３：実施人数や職種は？

基本的には２～３人の係員で事業を回していますが、課内の係員や上長含めて協力しながら実施しています。担当している係員の職種は全員が事務職です。父親支援を行うにあたっては他課の専門職の方々のご協力も今後いただけるように調整できたらと思っています。

Q４：予算はどれくらいですか？

予算をあまりかけずに工夫できたというところも、事業が実施できた大きな要因だと思います。チラシ印刷代数千円と講師費用のみで（職員の人件費は別）、おもちゃもセンターにあるものを使用しています。

Q５：プログラムを実施するにあたって工夫している点は何か。

パパが参加しやすい土曜日を選んで実施しています。特に実施に向けた広報活動に力を入れておりまして、各種乳幼児健診でのチラシ配布や、対象が似た母親向け講座でもチラシを配布しています。今後の工夫としては事業の実施の仕方を工夫していく必要があると思っているので、ファシリテーターを導入し事業の魅力を高めることと、事業の魅力を発信する方法を検討し、工夫を凝らしていきたいです。

Q６：今後の自治体での実施可能性はありますか？また他市でも実施可能だと思いますか？

集客の問題がありますが、事業としては継続していきたいと思っています。事業を行う中で参加されている父親の皆さんをみて、やはりニーズはあると感じています。また、男女共同参画センターとして、若い世代の男性への周知という点でも重要だと思っています。

他市でも十分実施は可能ではないでしょうか。大きな予算もかからないものですので、他市でも実施されるようになれば、父親のつながりをどう作り出せばいいのかを情報交換しながら進めたいです。

［事業担当者からのコメント］

大きなイベントではなく、そんなに予算がかかるものでないところから始めてみてはいかがでしょうか。集客のための広報や父親同士の交流の促し方等、検討すべき課題はまだまだ多いと感じていますが、試行錯誤しながら事業を継続していきたいです。理想は、市の事業の関係がないところでも父親同士がつながり、ともに育児を楽しむことができるような関係性を作ってもらえたらと考えています。

【大分県パパのコミュニティづくり推進事業】

【概要】
○自治体プロフィール：

人口 1,112,771 人 496,639 世帯
出生数 7,327 人（以上2022 年１月１日現在）_
高齢化率（65歳以上） 33.74%
年少化率（15歳未満） 12.01%（以上2021年10月１日現在）

○事業名：大分県パパのコミュニティづくり推進事業

○担当部門：大分県 福祉保健部 こども未来課 子育て支援班

○協力部門：実施希望があった大分県内各市町

○実施期間：2020年度～2022年度（単年度事業）

○年間予算：2020年度5,610千円、2021年度3,243千円、2022年度3,244千円

○実施目的：核家族や共働き世帯の増加、地域との関係の希薄化等で、子育てに対する不安感や孤立感を抱える母親は少なくなく、県が掲げる政策目標である「子育て満足度日本一」の実現のためには、母親に最も近い存在である父親の子育てへの参画が不可欠である。地域で男性の子育て参画を推進するため、子育てを楽しみ、率先して行う父親を養成するとともに、父親のコミュニティづくりを推進した。

○実施事業：①おおいた子育てパパ応援講座

②子育てパパのコミュニティ支援講座

○事業概要：
①大分県ではこれまでも男性の子育て参画を推進するため、子育てに関心のある父親等を対象に、男性の子育て参画に関する講座を実施し、男性の家事・育児関連時間は改善された。今後、さらなる男性の子育て参画のためには、子育てを行う父親同士の横の繋がりである父親のコミュニティづくりが不可欠であると考え、男性の子育て参画に資する内容の連続講座を実施し、子育てに参画する父親のコミュニティづくりを目指した。

②子育て支援拠点、児童館等の子育て支援施設等で、父親が利用しやすい環境を整え、男性の子育て参画や父親のコミュニティづくりを応援するため、男性の子育て参画支援者を養成した。

○協力団体：
①NPO法人ファザーリング・ジャパン九州、おおいたパパくらぶ、ぼんちパパクラブ、いまりパパネットワーク、パパラフ、日出ッPA！

②NPO法人ファザーリング・ジャパン、 NPO法人ファザーリング・ジャパン九州、おおいたパパくらぶ、ぼんちパパクラブ、パパスマイル四日市、四日市市役所

○実施市町：①2020年度 中津市、佐伯市、臼杵市（3ヶ所）
2021年度 日田市、竹田市・豊後大野市（共催）（2ヶ所）
2022年度 宇佐市、日出町（2ヶ所）

②2020年度 大分市、中津市（2ヶ所）
2021年度 大分市
2022年度 大分市

○広報、周知の方法：チラシ、大分県HP、協力団体HP、子育て情報誌、各開催市町の子育て施設での声かけ、大分県からの子育て施設への案内など。

4-9.父親支援の試行的プログラム　大分県

大分県パパのコミュニティづくり推進事業

【具体的なプログラムの内容】
＜①おおいた子育てパパ応援講座＞
○実施場所・回数・参加者数：
（2020年度）・中津市 村上記念童心館 、佐伯市 弥生児童館、臼杵市 よいこのへや（対面実施※一部オンライン切替）
・各市で6回ずつの連続講座
・男性参加者数（のべ） 中津市 15名、佐伯市 27名、臼杵市 71名、
オンライン 9名（乳幼児のいる父親およびその妻、子ども）
（2021年度）・AOSE日田・丸の内子育て支援センター、豊後大野市役所保健センター・竹田市体育センター他
・各市で5回ずつの連続講座
・男性参加者数（のべ） 日田市 45名、竹田市・豊後大野市44名 （乳幼児のいる父親およびその妻、子ども）
（2022年度）・宇佐市さんさん館、日出町さざんか児童館・地域子育て支援センター他
・各市町で5回ずつの連続講座
・男性参加者数（のべ） 宇佐市 40 名、日出町 45 名 （プレパパ、乳幼児のいる父親およびその妻、子ども）

○講座の様子：

○実施内容：
基本設計は講座・ワークショップ（90分）＋座談会（30分）として、主に以下の内容を組み合わせた連続講座を実施。全講座に座談会を設け、講師のファシリテーションのもと、父親の交流を促した。また、全講座の最後には、決意表明としてパパ宣言を行ってもらった。

・講座「笑っている父親になろう」
父親を楽しむための心得、真のイクメンとは、父親を取り巻く環境などをお伝えし、参加者自身の振り返りや、これから目指す父親像などを考えてもらった。

・WS「子どもと楽しむダンボールワークショップ」
自宅ではもちろん、幼稚園や保育園など大勢でもできるダンボール遊び。子どもが夢中になるダンボール遊びの魅力やコツを実際に体験し、参加者同士での交流を図った。

・講座「パパコミュニティをつくろう」
父親の輪を広げてパパ友を作ることが子どもの成長、自身の楽しみにつながることを伝えた。実際に父親のコミュニティを運営する方々のトークセッションや事例発表を行った。

・講座「パートナーシップ・家事ギャップ解消＆シェア講座」
パパコミュニティを楽しむ前に、家庭が円満であることが前提。普段の意識や接し方でパートナーシップがより良いものになること、家事育児のシェア方法などを伝えた。

・講座「働き方、環境改善を考える“部下ヂカラ”」
会社や上司がイクボスでないことを嘆くのではなく、自分たちの立場からできる働き方、職場改革の考え方を伝えた。グループワークを交えて、意見発表も行った。

・講座「絵本読み聞かせ」
子どもとの最高のコミュニケーションツールである絵本。絵本選びや読み聞かせのポイントなどをお伝えし、参加者にも実際に読み聞かせを行ってもらった。

・参加者同士で考える企画、今後についての座談会（2021、2022年度）
毎講座終了後に行われる座談会で、やってみたいことを企画。連続講座の最後のコマで実施をした。

○プログラムの改善点、課題等
各市町の実施窓口が拠点（現場）の担当者ではなく、市役所担当者の地区は集客に苦戦した。農家、自営業が多い地域では、土日に毎回参加できる人が少なかった。 子育て世帯が少ない地域も想定されるため実施地域に限らず、周辺の地域からの参加も募集した。市町村や拠点の特色をヒアリングし、集客の仕方はそれに応じた方法が今後は必要。
また、連続講座（途中参加も可）という講座の組み立ても参加ハードルが高いようであった。市町村（拠点）の協力を得ながらある程度、子育てに対する意欲のある父親を探し、声かけを行う必要がある。

○取り組みの評価（参加者からの評価を含む）
全講座とも参加者の満足度は高かった。全講座後半で実施した座談会では参加者同士がコミュニケーションを図り、父親ならではの悩みや不安を共有することで、徐々に距離が縮まっていく様子が見られた。この繋がりに継続性を持たせることが今後の課題となる。

意欲の高い拠点では、父親に向けた担当者の直接の声かけや、施設利用の妻経由等で意欲のあるメンバーを集めることができ、ほぼ全員が毎回の参加につながった。この地区では、参加者同士のつながりを今後も継続できるようLINE グループを作成し、独自でイベントを開催するなど、講座終了後も参加者同士の交流が続いている（臼杵市）。

地元にパパサークルを作りたいと強い思いのある参加者のいた地域（日田市）では、その方の繋がりで意欲的なメンバーが多く、最終的にサークルの立ち上げに繋がった（ぼんちパパくらぶ）

2021年度からは、連続講座の最終回を参加者自身での自主企画という事もあり、初回からLINEグループを作成し、講座以外の時間も活用しLINE やオンラインでの企画会議などを積極的に行ってもらうことができた地域もあった。一方、募集段階から苦戦した地域は積極的に応募してきたメンバー自体が１～２名程度で、拠点スタッフや各市の担当者の声かけにより何とか申し込みに繋がったというメンバーが大半だったため、コミュニティの継続には至らなかった。講座開始前に意欲的なパパを見つけることができるかで、成果が大きく変わる。

本事業において、コミュニティの形成に結びつかない地域もあったが、この講座に市町村担当、地域の子育て支援拠点の担当が参加することで、講座に参加したパパの子育てに対する思いなどを共有することができた。今後それぞれの地域で自走し、パパが子育てに不安を抱いている時のよりどころとしてコミュニティづくりの提供の場となることを期待する。

＜②子育てパパのコミュニティ支援講座＞

○実施場所・回数・参加者数：
（2020年度）・大分市 J：COMホルトホール大分、中津市 教育福祉センター多目的ホール　※講師、事例発表はオンライン
・それぞれ1回ずつ同様の講座
・参加者数（のべ） 32名（行政職員、子育て施設職員、支援者等）
（2021年度）・大分市 J：COMホルトホール大分
・1回
・参加者数17名（行政職員、子育て施設職員、支援者等）
（2022年度）・大分市 J：COMホルトホール大分
・1回
・参加者数25名（行政職員、子育て施設職員、支援者等）

○実施内容：
講義＋事例発表、トークセッションで構成。現代のパパを取り巻く環境や、なぜパパ支援が必要なのかという事、またパパたちが子育て支援施設に望むことを伝えた。事例発表、トークセッションでは、パパサークルの立ち上げやサポートに関わる方に登壇いただき、パパ支援を行う上での成功事例や失敗事例などの実体験と、またパパ当事者としての意見も伝えた。

○プログラムの改善点、課題等
講義＋事例発表、トークセッションという構成は事例の共有という意味でよかったと思う。今後はさらに深掘りして、それぞれの講座参加者が抱えている課題や問題意識を共有し、解決のヒントを見つけることができるような意見交換会やワークショップなどの実施も必要と考える。また、周辺地域の参加者とつながることで普段からお互いの課題や問題意識を共有できる体制づくりも必要と考える。

○取り組みの評価（参加者からの評価を含む）
「パパ支援をしたいけどやり方が分からない」、「パパ支援をやっても人が集まらない」という意見が多かったので、九州で実際に立ち上げに携わった3 名に登壇いただき、立ち上げるまでの実体験を話してもらう事で継続してやってみるという大切さを伝えた。実際に立ち上げるまでに、人が集まらなかった経験などの失敗例、や成功事例など具体的な話は、参加者にとっても今後の参考になったのではないかと考える。パパ同士のコミュニティと同じく、支援者同士の横のつながりを作っていくことも大切だと感じた。積極的にパパ支援を行っている拠点を紹介し、支援者が見学に行く機会や意見交換ができる場などがあると、さらにパパ支援が進んでいくと考える。

○今後の方向性
男性の子育て参画推進のための本事業を実施しているが、おおいた子育て応援パパ講座は前述のとおり連続講座ということでハードルが高いため、参加するパパは子育てに対する意識が高いパパが多いと感じている。県全体で男性の子育て参画の推進のためには、意識の低いパパに対してのアプローチも含めて検討する必要がある。あわせて、社会全体で本取組を推進するためには、市町村の子育て支援拠点などの地域の他、企業も巻き込んでの取り組みも必要と考える。

5.まとめ

【まとめ】

①自治体の父親事業とは　髙木悦子

地域の自治体では、昭和40年施行された母子保健法に基づき、母子保健活動が実施されてきました。主に新生児家庭訪問、乳幼児健診を通して適切な保健指導のもと日本の乳幼児死亡率の大幅な減少が実現し、平成12年に児童虐待防止法が施行されて以来、地域の母子保健の目的は育児指導から母親の育児不安軽減を目的とした育児支援へと変化しました。近年、共働き世帯と虐待報告は増加の一途をたどり、父親が育児と家事を担って、母親をサポートすることが奨励されてきました。

厚生労働省のイクメンプロジェクトによって父親の育児休業取得率も少しずつ増加傾向にあります。しかし父親は家事に慣れていない、育児のスキルがない、子どものいる生活の経験がないことが、家事・育児に積極的に関われない理由となり、効果は十分とは言えません。仕事と家事・育児との両立の問題や、母親と同様に産後うつを発症していることも報告されており、「頑張るお父さん」は、一人ですべてを担う母親と同様に、心身の健康を損ねてしまうことも明らかになってきました。2020年成育基本法に「父親の孤立」が加えられ、父親にも支援すべき、ということが閣議決定されています。家事・育児を担う父親は、まだ少数派であるために、母親が育児・家事に専念する以上に困難な問題が生じている可能性もあります。しかし父親が育児支援を受ける場所は、母子のように明確ではありません。

2020年に実施した全国の基礎自治体に対する父親への育児支援の調査では、母子健康手帳交付時と産前教室の妊娠期に、父親向けのパンフレットの配布や両親学級を設定して父親の参加を奨励するなど、既存の母子保健事業の中で父親に向けた何らかの育児支援を実施していました。主な対象を母親ではなく父親とした事業を実施したのは56自治体（6.5%）に止まりましたが、実施していなかった自治体の約70%はその必要性を感じていました。既存の母子保健事業で実施していた父親育児支援は、出生数の多い、人口規模が７万人（日本の基礎自治体平均値）以上の自治体で多いという結果でした。しかし、それでは十分ではないと感じている自治体が多く、父親のニーズを考慮した効果的な支援事業と実施に必要な予算が確保できれば、事業を展開していきたいと考えている自治体が多いことが分かりました。必要性を感じながらもニーズが分からない、対象理解が困難であると感じていることは、事業の母子保健担当の実施者の多くが、保健師や保育士といった女性が多い職種であることも理由の一つかもしれません。

父親を主な対象とした事業の展開が困難な地域の母子保健において、実施している少数の自治体のうち、調査にご協力いただいた20自治体の事例を掲載しました。参考にしていただければ幸いです。

5.まとめ

②今後進めていくポイント　阿川勇太

今回、2020年に実施した全国の基礎自治体における調査をもとに、父親支援を積極的に取り組んでいる自治体の好事例を集めさせていただきました。その中で、いくつか父親支援を今後進めていくポイントが見えてきたように思います。

まずは、父親が参加しやすい曜日の選定です。こちらについては多くの自治体で実施されているものと思いますが、父親が参加しやすいように土曜日や日曜日などの休日に合わせて事業をおこなっているという工夫が見られました。また最近では休日が不定な父親（シフト制など）に合わせて、休日と平日の夜を組み合わせたような父親支援を実施しているような民間団体も出て参りました。今回の好事例でもいくつかアウトソーシングしている事例がありましたが、自治体だけで負担をするのではなく、うまく外部団体も活用しながら父親のニーズに即した日時での開催ができるように努めていくことも大事であると思います。

次に講師についてです。各事業の講師は保健師や保育士や助産師などの専門職の方々が協力しながらおこなっている事例が多くありました。また、中には父親支援団体のメンバーや先輩パパを講師で招き、事業を実施するというものも見られています。専門家による事業ももちろんですが、一方で父親としては同じ父親である男性からも話が聞きたいという意見が自治体の事業では時折見られます。また父親ならではの視点も母親同様に必要であると考えます。地域に存在している父親支援団体があれば積極的に連携していくことが重要だと思いますし、存在していなければ地域のキーパーソンとなる父親の掘り起こし、連携はとても大事だと思います。さらに言えば、2020年の成育基本法の基本方針に父親の孤立予防が記載され、父親同士のつながりやピアサポートグループの形成が求められつつある今、実は誰が父親支援を行うかも非常に重要ではないかと考えています。継続的に父親支援を実施し、父親のつながりをつくられた三重県名張市の事例は素晴らしいなと思います。このように継続的な支援の場があるということは繋がりを作りやすいことは知られていますが、例えばこの事業の講師やスタッフとして新たに参加する父親とうまくつながっていける仕組みを作っていくことも大事ではないかと思います。つながりができればそこで終わりでなく、たてのつながりにつながるような父親支援事業の仕組みづくりとして、講師という立場をうまく使うことも必要ではないでしょうか。

5.まとめ

③課題への取り組み　小崎　恭弘

この事例集は基礎自治体の母子保健担当者を中心として、今後地域社会においての父親支援の積極的な展開を視野に入れて作成されたものである。父親へのさまざまな支援が求められるようになってきている現在においても、実際に父親支援の取り組みは母親の支援と比較するとまだまだその件数、内容共に少ない。それら父親支援に取り組みにくい課題、あるいは父親支援に取り組んでいるからこそ感じた課題についての項目を設定した。

それぞれの自治体のより具体的そして実践的な取り組みにおける課題は、今後父親支援に取り組み、また事業を展開する場合に大きく参考になり、また今後の取り組みの計画や広報などの具体的な配慮項目、あるいは事前の対応の検討項目となる。もちろん「課題」のみの解決がより良き事業遂行の要因ではないが、今後の父親支援の取り組みにおいて大きな示唆を与えるものではある。

全体の詳細な課題については好事例集にゆずるが、全体的に課題となる事項を以下の4点にまとめておく。今後の事業の参考となれば幸いである。

・多様化する父親への対応

「父親」と言っても、その生活環境、人物像、家族関係は多種多様である。社会全体の父親像を意識しながらも、支援者は父親自身の個別性への配慮と個々の生活へのイメージが必要になる。例えば、父親を対象にしたプログラムの日程や時間の設定も、その多様性を意識するのであれば、複数用意したりオンラインなどの活用も視野に入れる必要がある。また日本人ばかりではなく、外国籍の方や何かしら配慮の必要な父親も当然存在はしている。コアな父親像と多様化する父親像を意識した支援が今後求められていくと考える。

・父親ニーズの不明瞭

従来子育ては母親を中心とした支援がなされてきた。しかし近年の男女共同参画、働く女性の増加、父親自身の育児志向など、社会の変化の中で母親のみの育児から、夫婦、家族の育児へとシフトしてきた。その中で父親の意識も多様化してきており、そのニーズが不明瞭になってきている。「母親を支える父親」だけでなく、専業主夫の父親の存在などもあり、父親の的確なニーズを支援者が理解をする必要がある。

5.まとめ

・父親への広報と集客の困難さ

自治体が父親支援の取り組みをしても、その当事者の父親への広報、集客がうまく行われていない。これまでの子育ての近辺のネットワークに父親が存在していない。あるいは行政がその存在やアプローチの方法を持っていないことが原因である。母子保健領域だけでなく子育て支援、保育・教育など行政の持つ幾つかのチャンネルを活用し、市民としての父親へのアプローチの方法を複数用意していくことが必要である。

・コロナ対応

この数年の子どもに関わる活動はやはり大きくコロナ禍の影響を受けている。その中で具体的なプログラムや催しの開催が困難な状況である。しかし方やICTやインターネットなどのを活用した、新しいネットワークや活動のあり方も模索されている。また父親自身がそのようなものに長けている場合もあり、新しいつながりを作る機会とも捉えられる。アフターコロナではなく、ウィズコロナの視点を取り入れながらコロナ時代の新しい父親支援を作り出すタイミングであると考える。

2023年3月発行

【報告書著者】
・竹原健二（国立研究開発法人　国立成育医療研究センター　研究所　政策科学研究部）
・小崎恭弘（大阪教育大学　健康安全教育系教育学部教員養成課程家政教育部門）
・髙木悦子（帝京科学大学　医療科学部看護学科）
・阿川勇太（大阪総合保育大学　児童保育学部乳児保育学科）

本報告書に関するお問い合わせ：fmc@ncchd.go.jp

本報告書は「厚生労働科学研究費補助金」により作成しました。